心連心
Heart to Heart

第11期

京都にて

心連心：中国高校生長期招へい事業

報告書

平成28（2016）年9月6日―平成29（2017）年7月15日

目次

はじめに…… 3

事業紹介…… 4

生徒名簿…… 5

思い出のアルバム…… 6

第11期生に聞きました！ …… 14

好きなものランキング…… 20

帰国を前に ー作文集ー …… 21

第11期生を受け入れて …… 53

あとがき…… 62

心連心：中国高校生長期招へい事業

第11期 報告書

はじめに

平成28年9月6日に来日した「心連心：中国高校生長期招へい事業」の第11期生31名は、11か月にわたる日本での留学を終え、平成29年7月15日、全員無事帰国いたしました。

全国23都道府県での留学期間中は、受入校、ホストファミリー、地域の皆さまに温かく見守っていただく中、一人ひとりが様々に貴重な経験を重ねることが出来ました。ここに心から御礼申し上げます。

異なる文化の生活環境の中、日本語という外国語でのコミュニケーション、色々な悩みや戸惑いを乗り越えながら、クラスメート・先生・ホストファミリーをはじめ日本で多くの方々との出会いを通して、第11期生は大きな成長を遂げました。31名それぞれが自分の言葉で綴った作文、ぜひご一読いただければ幸いです。

国際交流基金日中交流センターは昨年、おかげさまで設立10周年を迎えることができました。当センターの設立当初よりスタートした本事業では、高校時代に約1年間の日本留学を経験した『心連心』ＯＢ・ＯＧが既に360名に達しました。

平成29年秋現在、うち4割を超える153名が再び日本に戻ってきて、大学・大学院へ進学したり、日本で就職し社会人となって活躍しています。また中国在住の『心連心』ＯＢ・ＯＧからも、第8期生の遅宇希さんが今年の「高考」（中国の大学入学試験）の日本語科目で異例の満点を取ってメディアに取り上げられたり、中国外交部に入り外交官となったＯＢ・ＯＧが何名も出てくる等、喜ばしいニュースが届いています。

いま現在の居住地が日本でも中国でも、或いはその他の国であっても、多くのＯＢ・ＯＧが、高校時代の日本留学経験を糧に自分の夢や目標に向かって進むかたわら、当センターが実施する様々な日中交流事業に参加したり、自ら日中交流プログラムを企画・運営する等してくれています。「日中交流の輪を広げたい」と積極的に活動する彼等の頼もしい姿を見ることは、我々にとって大きな喜びです。

日中両国の青少年が互いの絆を深めながら共に成長していけるよう、当センターではこれからも倍旧の努力を重ねて参ります。第11期生の受入にご協力くださった皆様にも、引き続きご支援・ご協力のほど、宜しくお願い申し上げます。

独立行政法人国際交流基金　日中交流センター
所長　阿南 惟茂

「心連心：中国高校生長期招へい事業」とは

「心連心：中国高校生長期招へい事業」は、未来志向の日中関係を築く礎として、より深い青少年交流を実現させるため、日中両政府間の合意に基づく事業として、2006年度に開始されました。本事業では“心と心をつなぐ”をモットーに、「心連心」というプログラム名称を用いています。

中国政府の推薦と国際交流基金の選考を受け、本事業の第11期生として2016年9月6日より来日した中国人高校生31名は、日本各地に滞在し、様々な活動を通じてホストファミリーや日本の高校生たちとの絆を深めました。

本事業は、中国の高校生に日本滞在の機会を提供し、その生活を通して日本の社会と文化を知ってもらい、同時に日本の高校生たちにも同年代の中国の高校生と交流する機会を提供するものです。直に交流し、心と心を結び合うことで、日中両国の長期的な関係発展の基礎となる若い世代の信頼関係を築くことを目指しています。

実施概要

期間	2016年9月6日～2017年7月15日
実施体制	中国国内での招へい生選考……国際交流基金と中国教育部が共同で実施 日本国内における受入れ……受入校と国際交流基金が共同で実施
招へい生徒	全31名（女子18名、男子13名） 第11期は、北京市、天津市、河北省、山西省、遼寧省、吉林省、上海市、江蘇省、福建省、山東省、河南省、湖北省、湖南省、四川省、陝西省より選抜
国内受入地	北海道、岩手県、秋田県、埼玉県、東京都、神奈川県、長野県、 福井県、静岡県、愛知県、三重県、京都府、大阪府、奈良県、和歌山県、 広島県、福岡県、佐賀県、大分県、長崎県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県
経費負担	学費や教科書代・副教材費、制服代など生徒が学校に支払うべき経費を上限100万円（寮の場合は150万円）の範囲内で国際交流基金が支弁
協賛	カシオ計算機株式会社、株式会社資生堂

「心連心：中国高校生長期招へい事業」第 11 期生名簿

No.	氏名	氏名	性別	出身地	受入高校	都道府県	作文掲載ページ
1	劉 鈺辰	LIU Yuchen	女	河北省	とわの森三愛高等学校	北海道	22
2	李 澤宇	LI Zeyu	男	遼寧省	立命館慶祥中学校・高等学校	北海道	23
3	曹 源	CAO Yuan	男	河南省	盛岡中央高等学校	岩手県	24
4	陳 豪	CHEN Hao	男	福建省	明桜高等学校	秋田県	25
5	劉 冠龍	LIU Guanlong	男	山東省	埼玉県立蕨高等学校	埼玉県	26
6	張 義澤	ZHANG Yize	男	天津市	東京学芸大学附属国際中等教育学校	東京都	27
7	孫 瑞雪	SUN Ruixue	女	遼寧省	横須賀市立横須賀総合高等学校	神奈川県	28
8	趙 祖巍	ZHAO Zuwei	男	河北省	敦賀気比高等学校	福井県	29
9	郭 倩鈺	GUO Qianyu	女	山西省	長野県長野西高等学校	長野県	30
10	鄭 桐	ZHENG Tong	女	吉林省	静岡学園高等学校	静岡県	31
11	郭 曼玉	GUO Manyu	女	遼寧省	光ヶ丘女子高等学校	愛知県	32
12	劉 伊	LIU Yi	女	湖北省	桜丘高等学校	愛知県	33
13	張 雨瀟	ZHANG Yuxiao	女	四川省	三重高等学校	三重県	34
14	楊 正琨	YANG Zhengkun	女	湖北省	京都府立鳥羽高等学校	京都府	35
15	周 冀龍	ZHOU Jilong	男	湖北省	立命館宇治中学校・高等学校	京都府	36
16	趙 津	ZHAO Jin	女	天津市	大阪府立桜塚高等学校	大阪府	37
17	万 美池	WAN Meichi	女	上海市	大阪府立夕陽丘高等学校	大阪府	38
18	寇 主銘	KOU Zhuming	男	遼寧省	清風南海中学校・高等学校	大阪府	39
19	李 笑寒	LI Xiaohan	女	河北省	奈良市立一条高等学校	奈良県	40
20	陳 溢暘	CHEN Yiyang	男	福建省	和歌山県立那賀高等学校	和歌山県	41
21	陳 傲	CHEN Ao	女	山西省	広島市立舟入高等学校	広島県	42
22	韓 星	HAN Xing	女	山東省	福岡市立福岡西陵高等学校	福岡県	43
23	楊 鉄寧	YANG Tiening	女	河北省	龍谷高等学校	佐賀県	44
24	褚 睿雯	CHU Ruiwen	女	北京市	活水高等学校	長崎県	45
25	何 祥龍	HE Xianglong	男	陝西省	長崎県立壱岐高等学校	長崎県	46
26	劉 禎	LIU Zhen	男	山東省	岩田中学校・高等学校	大分県	47
27	張 霆宇	ZHANG Tingyu	男	天津市	日章学園高等学校	宮崎県	48
28	梁 愷東	LIANG Kaidong	男	湖南省	鹿児島県育英館高等学校	鹿児島県	49
29	周 躍	ZHOU Yue	女	江蘇省	鹿児島県立武岡台高等学校	鹿児島県	50
30	姜 慧玲	JIANG Huiling	女	吉林省	神村学園高等部	鹿児島県	51
31	謝 雨欣	XIE Yuxin	女	四川省	沖縄県立向陽高等学校	沖縄県	52

思い出のアルバム

第11期生の一年間

2016年9月6日、第11期生、31名が羽田空港に降り立ちました。
これから約11ヶ月間の留学生活を前に、東京都内で「来日研修」を行いました。日本で高校生活を送る上でのルールや食事マナーなどの生活指導、地震等の災害に備えた防災研修を受けました。また中野駅周辺で、現金での買い物体験や交通ルールの確認などする「街歩き」を行いました。中国とは随分違う習慣に最初は戸惑いながらも、これから一年近くを過ごす日本での暮らしに期待を膨らませていました。「来日歓迎レセプション」では、一人ひとりが自己紹介し、これから始まる留学生活を前に緊張した面持ちでしたが、受入校の先生方やホストファミリーの方々が温かい歓迎の言葉をかけて下さり、すぐに打ち解けて会話が弾んでいました。
第11期生の成長の軌跡をご覧ください！

心連心ウェブサイトからも来日歓迎レセプションの様子をご覧ください。
http://www.chinacenter.jp/japanese/invitation/now/record/044.html

来日研修 in 東京
2016年9月6日–10日

ようこそ日本へ！

外務省・中国大使館を表敬訪問

食券の買い方を勉強中・・・

日本の街を歩いてみようin中野

池袋防災館で地震を体験!!

「はじめまして、先生!」

対面式

日本の食事マナーを学びました

心連心の先輩から、有難いエールをもらいました

いよいよ留学生活が始まります!

生徒代表挨拶

中国の春節を紹介する練習をしました

歓迎レセプション

私たちの日常

同期の仲間たちと離れ、日本全国それぞれの留学先で、新たな生活をスタートさせた第11期生たち。すべて日本語で行われる授業、想像よりもきつかった部活動、文化祭や体育祭などの学校行事、電車や自転車での登下校…初めての経験の連続で楽しいことばかりではありませんでした。辛いこと、悔しいこともたくさん経験し、それぞれが自分の力で31通りの『物語』を作りました。そして、その影にはいつも、学校の先生や仲間たち、ホストファミリーの方々の温かい支えがありました。

第11期生たちの日常をつづった留学日記もどうぞご覧ください。
http://www.chinacenter.jp/diary/index

着物を着せてもらいました

日本の高校生になりました！

部活の仲間たちと

放課後を
エンジョイ☆

かわいい(笑)??

学校の友達が
報告会に来てくれました

JK体験☆

美術部で描いた作品が
「特選」を受賞しました

お兄さんになったみたい

SMILE

日本での楽しい学生生活を満喫中!!

中間研修

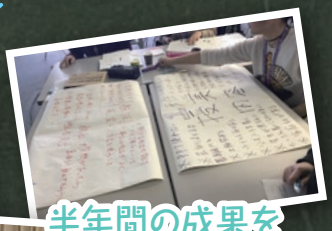
in 大阪・京都
2017年1月30日―2月3日

来日から半年経った1月末~2月にかけて、大阪府の舞洲（まいしま）に集まり「中間研修」を行いました。半年間の留学生活の中で、異文化への戸惑いや友達との関係など、さまざまな悩みが生まれています。研修ではそんな悩み・不安を共有し、解決方法を探るとともに、留学先でどんなことを頑張ってきたか、写真をまじえながら皆で紹介しあいました。そしてフィールドワークでは京都の清水寺や金閣寺を訪問、着付け体験もしました。

半年ぶりに会う仲間たちは、日本語が格段に伸び、自立心が芽生え、お互いの成長した姿に大いに刺激を受けたようです。充実した研修を終えた第11期生は、残り半年の留学生活に新たな目標を立て、それぞれの留学先に戻っていきました。

心連心ウェブサイトからも中間研修の様子をご覧ください。
http://www.chinacenter.jp/japanese/invitation/now/record/045.html

日本の高校生活分析



半年間の成果を
発表しました

陶芸に挑戦

阿南所長との対談

卒業生体験談

金閣寺をバックに

着物着付け体験

清水寺でフィールドワーク

後半の留学生活目標発表

帰国前研修

in 東京
2017年7月12日—15日

2016年9月に来日し、約11ヶ月間の留学生活を終えた第11期生は、2017年7月15日、31名全員そろって帰国の日を迎えました。

約11ヶ月間楽しいこと、辛いこともたくさん経験してきた彼らは、来日時と比べて見違えるほど成長し、精悍な顔つきになっていました。帰国前日の「帰国前報告会」では、部活動や学校行事など、それぞれが等身大の日本に触れて感じたこと、頑張ったことなどを発表し、さまざまなことにチャレンジした留学生活の成果を見せてくれました。

第11期生の留学生活はこれで終わりますが、彼らにとってはここからが始まりです。自分の将来の夢に向かって一生懸命努力し、日中友好の架け橋となり続けてくれることを願います。

心連心ウェブサイトからも帰国報告会の様子をご覧ください。
http://www.chinacenter.jp/japanese/invitation/now/record/047.html

一年間の成果発表

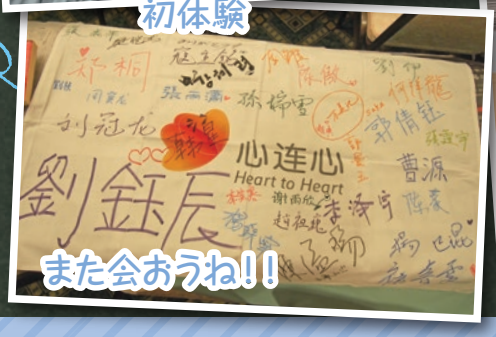
旅立ちの言葉

ホストファミリーと

もんじゃ焼き初体験

修了証書授与式

東大見学



また会おうね!!

日本の皆さん、大変お世話になりました！

中国人留学生が選んだ日本の部活とは？

11期生全体で部活動に参加しているのは30名。運動部が14名、文化部が21名です。ん？合計人数が合わない？？　運動部と文化部の両方を掛け持ちしている生徒もいて、部活動に積極的に参加している姿がうかがえます。

部活動を選ぶ基準として多く聞こえてきたのが「日本でしかできないものをやってみたい！」ということ。運動部では「武道」が人気で、剣道部・弓道部・柔道部に7名（男子4名、女子3名）が所属しています。武道を知ったきっかけが日本の「ゲーム」や「アニメ」というのが“イマドキ”です。

文化部は茶道や華道、書道といった日本の伝統文化を学ぶ「芸道」を7名（男子2名、女子5名）が選んでいました。また、「中国にはない」と密かに注目されているのが、家庭科部（女子2名）やイラスト部（女子1名）。新旧の日本文化を大いに吸収しているようです。

心連心ウェブサイトからも部活動の様子をご覧ください。
http://www.chinacenter.jp/webroot/japanese/invitation/now/record/046.html

イラスト部

趙津さんの作品

趙津さん
［大阪府立桜塚高等学校］

家庭科部

劉鈺辰さん
［とわの森三愛高等学校（北海道）］

みんなとワイワイお菓子作り。
真ん中の写真の左が劉鈺辰さん

剣道部

梁愷東さん
［鹿児島育英館高等学校］

精神を集中し、
自分と向き合う梁愷東さん

茶道部

何祥龍さん
［長崎県立壱岐高等学校］

顧問の先生から道具の扱い方を教わります。椅子での練習のときは正座から解放されてひと安心。

弓道部

張霆宇さん
［日章学園高等学校（宮崎県）］

残心。矢を射ってからも集中力は続きます。

静寂の中、集中力を高めます。
右から2番目が張霆宇さん

テニス部

テニス部が全員集合！
真ん中の列の右端が何祥龍さん

張霆宇さんの部活動や交流の様子を心連心TVからもご覧になれます。
http://www.chinacenter.jp/japanese/tv/

柔道部

韓星さん
［福岡市立西陵高等学校］

盛れるカメラアプリ撮影はJKのお約束！
部員と一緒に。真ん中が韓さん。

地道な練習の繰り返しで、
技を身体に覚え込ませていきます。

気迫が伝わってきます！

韓星さんの部活動や交流の様子を
心連心TVからもご覧になれます。
http://www.chinacenter.jp/japanese/tv/

華道部

周躍さん
［鹿児島県立武岡台高等学校］

東京への修学旅行で部
活の仲間とパチリ。右
が周躍さん。

お正月をテーマにした作品。
「全体のバランスが難しかった」
と周さん。

バスケットボール部

張義澤さん
［東京学芸大学附属
国際中等教育学校］

バスケ部のみんなと。
張義澤さんは前列右。

ねんざも良くなって、
パス練習でウオーミン
グアップ。左が張義澤
さん。

寇主銘さん
［清風南海中学校・
高等学校］

バスケットボール部の高校３年生の引退試合の帰りに
撮った写真。後ろの列の右から５番目が寇主銘さん。

剣道部

陳傲さん
［広島市立舟入高等学校］

ともに研鑽を積む仲間たち。
陳さんは左から２番目。

陳さん、面を打ち込んでます。
メーーーーン！

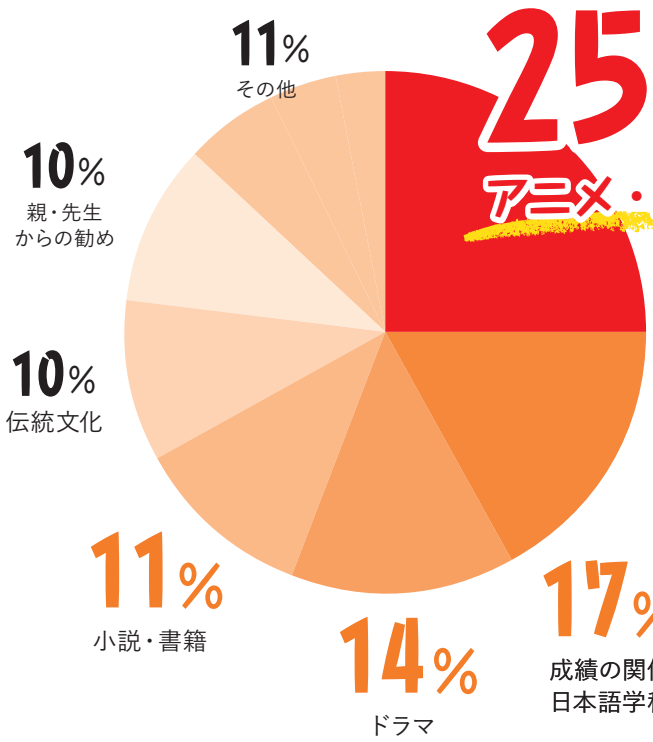
真ん中が陳傲さん。
白い道着姿が様になってる！

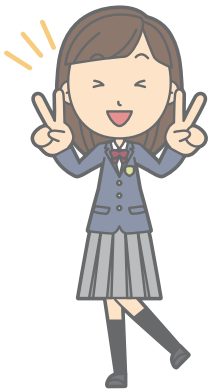
アンケート結果

第11期生に聞きました！

日本での約1年間を過ごした11期生たちにいろんなことを聞いてみました。彼らの感じたことをぜひご覧下さい。

Q 日本語を勉強し始めたきっかけは何ですか？（複数回答）

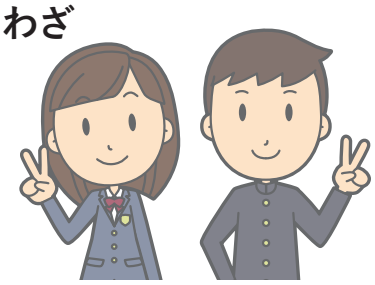




comment

国際交流基金が2015年に行った海外日本語教育機関調査によると、中国の日本語学習者は2012年に引き続き、第1位を占めています。アニメやマンガ、ゲームソフト、ポップミュージック、ファッションといった日本のポップカルチャーをきっかけに、日本語を学び始める人たちが増えているそうですが、特徴的なのは、大人よりも子どもたち（年少者）の間での学習熱が高くなっていることで、それが日本語、ひいては日本そのものへの関心につながっているそうです。（外務省HP 「わかる！国際事情」ページを参考）第11期生たちも学習動機の1位に掲げたのが「アニメ・漫画」への興味とのことでした。

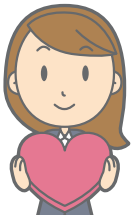
Q 好きな日本の言葉・ことわざ



ことわざ

一期一会

茶道にそういう言葉があって、とても良い意味だと思います。
そんな人生に対する態度が好きだから



光陰矢の如し

中国語のことわざと似ているから。
自分の留学の1年間を振り返ってしみじみ感じました。

一念天に通ず

やり遂げようとする堅い決意さえ持っていれば、その意思は天に通じて不可能と思われることでも実現できるということ。中国語で「一念通天」といい、何事も弛まず続ける気持ちが好きだから。

禍福は糾える縄の如し

良い意味だと思う。

行雲流水の如く

人生には困難が多いので、行く雲や流れる水のように一事に執着せず、自然に任せて行動した方が良い。

笑う門には福来る

すごく前向きだから。

目から鱗が落ちる

このことわざの意味が分かったときに「目から鱗が落ちる」思いがしたから。

花より団子

内なる美、或いは見た目は良くないが
実は良いものの方をもっと追求するべきだと思う。

ことば

月が綺麗ですね

夏目漱石が訳したこのフレーズには日本人の心や、日本式のロマンスが含まれているから。

明日は明日の風が吹く

クヨクヨしてばかりいても無駄で、それよりも今やるべきことをしっかりやって、明日は明日を越えれば良い。夢は逃げない、逃げるのはいつも自分だ。疲れてすべきことを諦めた時、このことわざを思い出せばいつも力を貰えるから。

全ての人生は素晴らしい

ある広告で見た言葉。本当にそう思う。様々な生き方が有ると思う。命は1度きりなので、自分のやりたいと思うことに使ったほうが良いと思う。

やられたらやり返す、倍返しだ

私が一番好きなドラマの主役の言葉だから。

僕がアラジンなら君がジャスミン

清水翔太の「My Boo」の歌詞のフレーズ。
二人の恋はアラジンとジャスミンの物語の様で、楽しく幸せな感じがする。

何で、分からない、抱きしめて、ギューして

甘えるのが大好き。

Q 100円ショップで感動した商品は？

文房具

- 品質が良くて値段が安いから。
- フォルダー … 品質や見た目が良いのに100円だから。
- マークペンセット … 安いから。
- 定規セット … 日本の文房具は基本的に高いが、100円ショップの定規セットはずっと安くてお得だ。

化粧品

- ファンデーション … 100円だとは思えない品質。とても面白いと思う。
- UVカット … 効果も良いし、持ち運ぶのも便利だから。

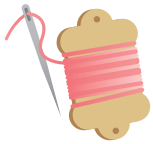
家庭用品

- 靴下 … 100円ショップの靴下は普通のお店が買うよりも安い。
- スリッパ … 意外と柔らかいし、靴ずれしないから。
- 真空パック … 物を簡単に片付けることができるし、掃除機等が要らないから。
- 毛玉取り … 冬の制服にたくさん毛玉ができてしまったときに助かりました。
- 携帯のカバー … 普通のカバーは3000円くらいだが、100円ショップでは300円くらいで買える。
- ガラス瓶 … きれいなガラス瓶がたくさん有るし、品質も良いのでお得だと思う。
- ネクタイ … ネクタイを忘れたサラリーマンにとって便利だし、100円で済むので感動した。

その他

- お菓子、卵切り機、小さい本。
- 感動したことはない。100円ショップでは何でも売っているけど、無くても生活できる商品だから。

裁縫道具



家庭科で必要だったので購入した。安かった。

辞典

100円ショップで諺の小辞典が見つかって、面白くて使いやすかった。

イージーシーラー（熱で袋を密封する道具）

中国だと20元（300円）くらいかかると思う。

Q 中国に持って帰りたいモノ！

日本の教科書、参考書、辞書

- また日本に留学するかもしれないため、専門的な用語などを知らないと困るから。中国には絶対無いものだから。
- 他の国の同年代の学生が何を勉強しているか理解できるから。
- 日本の大学に進学したいが、教材や問題集は日本でしか購入できないから。

たこ焼き機

みんなで一緒にたこ焼きを作ることができる。たこだけでなく、他の食材を入れても良い。

手帳

携帯するのに便利、デザインが豊富、効率が良いと言った様々なメリットがあるから。

洗濯ネット

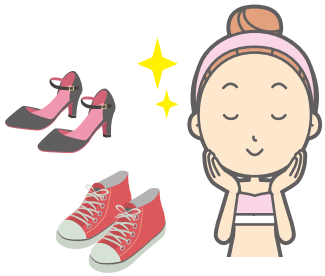
洗濯ネットが有れば手洗いの洗濯物も洗濯機で洗えるから。

その他

- 化粧品、和服・浴衣、お菓子、ふりかけ、ポン酢、カルピス原液、醤油・味噌といった特産品、ご当地限定の記念品やお菓子等。
- 経験 … 経験は私しか持っていないものだから。

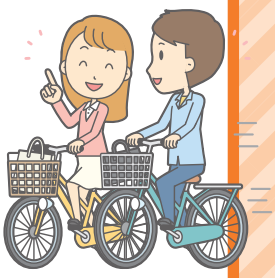
Q 発見！ 日本人って○○な人

がんばる！凝る、こだわる



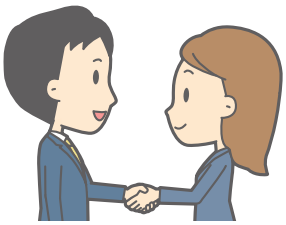
髪の毛から顔、服、手、爪、
靴など全部しゃれている。

坂道もスイスイ登る！！



日本の地形のせいか
坂が多いのに、みんな上手に
自転車に乗れるから。

人間関係を大切にする！



親切

- 話しやすい人が多い。
- 本当に親切だと思う。
- 先生も、生徒も、知らない人でも、みんな話しかけやすいから。
- 切符が無くなった時や、道に迷った時に周りの日本人に尋ねたらみんな親しく答えてくれたから。
- 来日当初、たくさんの人が話しかけてくれたから。

礼儀正しい

- みんな良い人だから。
- 挨拶が多い。

しつけ・マナーがいい

- 授業の5分前にはもう用意ができている。
- 授業で眠くなっても体勢を崩さない。

褒め上手

- 「すごい!」、「かわいい!」など、人を褒める言葉を良く使う。
- たとえ本音でなくてもかわいいとか、かっこいいと褒めるから。

その他

- 優しい。
- 思いやりがある。
- 人との繋がりが強くて、
  人と人との境界線も薄く感じられます。
- 時間や約束を守る。
- 集団行動を好む。
- 仕事が丁寧で細部にまでこだわる。
- 従順。
- おもしろい。

他人の目を意識する！

照れる

- なかなか声をかけてきてくれない。
- 初めて会う人と会話を始めるのは難しいから。
- 日本人はとても恥ずかしがり屋だと思う。

表現を抑える

曖昧

伝えたいことが時々分からない。

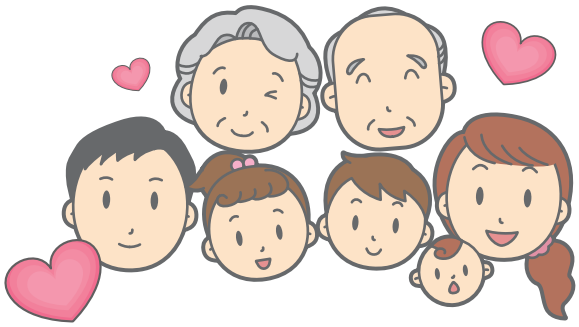
感情を表に出さない

友人と一緒に遊びに行くと、学校での姿と全く違うから。

周囲に配慮する

相手の気持ちを良く考える

一緒に実験をする時、
丁寧に自分の意見を述べる。



comment

日本は長い間、外部の人々と交流する機会が少ないまま近代化を迎えたため、日本語や日本文化の中に、外国の人から見ると、なかなか理解しにくい事柄がみられるそうです。第 11 期生たちは日本人との交流を通じて、新しい価値観に触れ、更に日本理解を深められたのではないかと思います。

Q 日本の遊び（中国の遊びと関係ある？）

じゃんけん

中国の「猜拳」と関係が有るようです。調べてみると、現代のじゃんけんは明治時代に日本人が世界各国に伝えたもののようです。それより前にも拳遊びは世界各地にあり、ルールはそれぞれ違うようです。

指の足し算

日本では片手で1～ 5まで数えるから5で終わりだけど、中国では1～10まで片手で数えられる。

カラオケ

日本で発明され、中国でも人気がある。日本でも中国でもみんなカラオケに行っている。
陰陽師 「人」と「妖」が共存する平安世界という設定で、世界的に人気がある。
零 ～紅い蝶～ 霊や鬼が怖いが倒すことができる。日本人も中国人も運命を信じつつも、運命は変えられると信じていて素晴らしいと思う。

キャッチボール

中国の学校ではあまりしていなかった。
バスケとバトミントンをして遊ぶことが多い。

鬼ごっこ

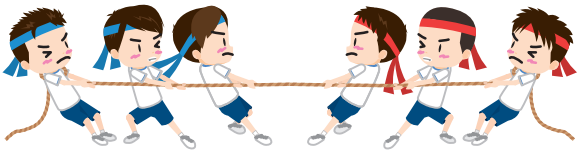
中国にもある簡単なゲームで、日本の学生の間でも流行っている。

警泥

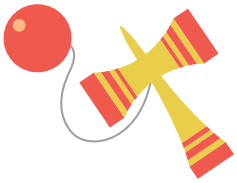
中国でも似た遊びがあります。

綱引き、縄跳び

中国の体育祭でも同じような競技や運動がある。



けん玉



競技大会がある。

かるた

トランプから生まれた遊び。
中国の遊びとは関係ない。
とても難しい。特に歌が難しい。

comment

世界の子供たちは同じような遊びをしているのでしょうか。第 11 期生たちが中国で遊んでいたゲームと日本のゲームは似ているところがたくさんあったようです。

Q 日本のご当地伝統行事、中国と関係がある？どんなところに感動した？

関係ある

お正月

- お正月の伝統行事は、お年玉など、中国と似ている点が結構ある。
  中国人もお祭りは参加するけれど、行事はちょっと違う。
- 中国にもお正月がある。家族と一緒に新しい1年を迎える。紅白歌会もある。

十五夜

中国の中秋と似ている。中秋では月餅を食べ、十五夜は団子を食べる。

似ていると回答した人

花火大会（夏の風物詩）

花火への驚きやリアクションは日本人の方が大きいが、中国の花火の方が立派でスケールが大きい。

北海道義士祭（北海道）

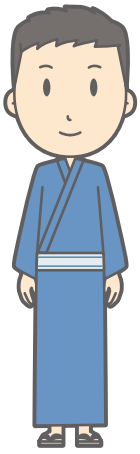
墓前祭、居合道、吟詠の披露、義士そば、甘酒のふるまい、義士パレード等は中国の清明節と似ている。

札幌雪祭り（北海道）

札幌で毎年2月に行われる雪祭り。世界各地の彫刻が展示されている。中国の伝統的な建物や現代のゲームキャラクターも並んでいる。中国にもあるが、違う風情があるから。

五山の送り火（京都府）

中国の清明節と日本のお盆は似ているが、このような行事は無かった。



関係がないと回答した人

竿燈祭り（秋田県）

竿燈祭りは秋田でしか行われていないので、中国とはあまり関係ないと思う。

敦賀祭り（福井県）

9月2日～5日まで秋の訪れを告げる長祭り。気比神宮の例祭。中国の行事とはあまり関係無い。

御柱際（長野県）

一番盛り上がるお祭り。中国の行事との関係はない。

天神祭（大阪府）

日本の三大祭の一つ。中国の行事とは関係ないです。

堺祭り（大阪府）

昔の堺は港町として外国と交流があり、文化にも触れている。中国の瀋陽とは特に関わりはない。

フラワーフェスティバル（広島県）

5月3日～ 5日　広島の野球チーム、カープと関係が有ります。

博多祇園山笠、どんたく（福岡県）

中国の行事とは関係ない。

comment　日本の津々浦々に配置となった第11期生たちは、地元ならではのイベント体験をたくさんしたのですね。中には中国と同じような年中行事やお祝い行事もあったようです。

第11期生 好きなものランキング

あなたの好きな日本のものを教えてください！

好きな日本の本（作家）編

No.1 東野 圭吾（容疑者Xの献身、ブルータスの心臓、白夜行、流星の絆など）

No.2 太宰 治（人間失格）

No.3 川端 康成（雪国）

【その他】青空エール／君の膵臓を食べたい／UN-GO因果論／俺ガイル／君の名は。／金閣寺／源氏物語／言の葉の庭／五体不満足／コンビニ人間／失楽園／死亡フラグが立ちました！ など

comment 東野圭吾が1位、太宰治、川端康成、村上春樹の作品は毎年ランキング上位に入っています。中国でも翻訳され、出版されているので年代を問わず人気が高い作家です。その他、沢山の漫画の名前が挙がっていました！

好きな日本の俳優 編

No.1 新垣結衣／山下智久

No.2 石原さとみ

No.3 生田斗真／大野智／坂口健太郎／ブルゾンちえみ／山崎賢人

【その他】浅田真央／天海佑希／嵐／有村架純／小栗旬／関ジャニ∞／神谷浩史／桐谷健太／桐谷美玲／窪田正孝／小松菜奈／堺雅人／佐々木希／佐藤健／鹿乃／菅田将暉／長澤まさみ／橋本環奈／ピコ太郎 など

comment 新垣結衣、山下智久が1位になりましたね。去年ブレイクしたお笑い芸人のブルゾンちえみが3位入賞。ピコ太郎も根強い人気でノミネートされました。その他、イケメン俳優、美人女優が並びましたね。

好きな日本のテレビ番組 編

No.1 嵐にしやがれ

No.2 人間観察バラエティ モニタリング／痛快TVスカッとジャパン

No.3 世界の果てまでイッテQ

【その他】A liveカルテット／関西ジャニ∞クロニクル／銀魂／クレイジー・ジャーニー／月曜から夜更かし／孤独のグルメ／コード・ブルードクターヘリ緊急救命／サタデープラス／ジャニ勉／世界遺産100 など

comment バラエティ番組が上位を占めました。特に嵐や関ジャニ∞などジャニーズアイドルの人気は健在ですね。「世界遺産100」などの文化的な番組にも票が入りました。

好きな日本の食べ物 編

No.1 ラーメン

No.2 うどん／たこ焼き

No.3 寿司

【その他】お好み焼き／焼きそば／すき焼き／焼肉／から揚げ／カレーライス／タコライス

comment 広い中国全土からやってきた生徒たちの味覚はそれぞれ異なりますが、ラーメンはダントツ人気でした！ラーメン、粉物類は根強い人気です。カレーライスもノミネート。また、以前と比べると、生ものも食べられる生徒が増えた気がします。

好きな日本のスナック菓子は？？

No.1 白い恋人／ポッキー／じゃがりこ

No.2 アルフォート／ブラックサンダー／抹茶チョコレート／カルビーのお菓子

No.3 いちご大福

【その他】芋けんぴ／うまい棒／男梅／おにぎり／柿ピー／カップラーメン／桔梗信玄餅／キットカット

comment 桔梗信玄餅などご当地のお菓子もノミネートされていますね！

番外編 嫌いな日本の食べ物は？？

No.1 納豆

No.2 刺身

No.3 しそ

【その他】梅干／おでん／牡蠣／ごぼう／ごぼう天／鯖／大根漬け／たらこソース／漬物／とろろ／ナマコ／苦瓜／わさび

［嫌いな理由］

納豆 … 納豆の味や臭いが苦手／どうしても味が好きになれない。ネバネバした食感が嫌。

刺身 … 中国では生の魚をあまり食べないので慣れない。

しそ … 中国で食べたことがなく変な味がする。

comment ワースト1は6年連続納豆でした！ごぼうや大根など、中華料理にあまり使われない日本食ならではの食材は、食べ慣れないこともあって不人気でした。臭いや食感を嫌いな理由に挙げる生徒が多数いました。

帰国を前に
－作文集－

親元を離れやってきた日本での11ヵ月間は
笑いあり、涙ありの充実した日々でした。
帰国を前に11期生に思い出を振り返り
作文を書いてもらいました。

愛と感動の１年間 ～アーメン～

とわの森三愛高等学校／石家荘外国語学校
劉　鈺辰
LIU Yuchen

北海道の夏の風が昨年同様涼しく吹いています。そんな中私の留学生活のカウントダウンが始まりました。みんなと別れたくない気持ちと家に帰りたい気持ちの両方が心の中で複雑に絡まっています。あっという間に11ヶ月が経ちました。私はこの一年間の中で多くのことが心に強く残っています。

明るくて楽しい６組

思えば昨年の夏、中国から一緒に来た同期の留学生たちと東京で別れたあと、一人で北海道に来て高校に入学した当初は、まだまだ聞き取れない日本語が多く、自分の考えを上手く表現することができませんでした。しかし、クラスの皆は週２回の中国語の授業で習った言葉を使って、私に挨拶をしてくれました。私はその時本当に感動しました。みんなが私を歓迎するために、中国語で挨拶をしてくれたその親切な気持ちに触れ、心の緊張があっという間に消えました。その後も少しずつクラスメイトたちと打ち解け、毎日の交流を通して日本語力を高め、さらに心と心の距離を近づけることができました。このことによって、真に６組の大家族の一員になれたと感じました。また、キリスト教の学校であるため、テキストの知識だけではなく、みんなの中にある思いやりと愛も学ぶことができました。

心の扉を開けてくれた茶道

私はお茶の作法を学びながら和菓子を味わうということを体験してみたかったので、茶道部に入部をしました。私は最初、茶道部はお菓子を食べることとお茶を飲むことしかなく、交流は全然ない部活ではないか、と思いました。しかし、そうではありませんでした！茶道には言葉による交流もあれば、それ以上に心と心を通わせる交流があり、主人と客との間にやりとりは欠かせません。例えば「お菓子を頂戴致します」「盆略点前お願いします」「お薄を一服差し上げます」など、敬語の対話の中から感謝の気持ちが感じられます。また、先生が茶道における、畳の歩き方と真行草という正しい挨拶の姿も教えてくれました。このようなやりとりの中で、自分自身の心が豊かになるのを感じました。伝統的な文化について学び、交流を重ねる中で日本の魅力を見つけることができました。

家のような暖かさ

私は寮生として朝６時半の点呼から、寝る前のおやすみの挨拶まで、ほとんどの時間をみんなと一緒に過ごしています、一緒に料理を作ったり、夕礼拝に出たり、休みの時は旅行に行き、多くの楽しい思い出を作ることができ、寮は本当に大家族だと感じました。

初めて礼拝堂で拙い日本語で自己紹介したときと比べると、今は授業中に質問に対して正確に答えられるまでになりました。さらに、初めて部活に参加したとき先輩からご指導して頂く立場でしたが今は後輩にしっかりと指導できるようになり、一年で大きく成長することができました。

30kmの強歩遠足やコース行事のクライミングやボランティアなどいろいろなイベントが終わって行き、お別れの日が近づいて来ています。この一年間を振り返って、頭にいろいろな思い出が浮かんでいます。毎日が私の人生の中で特別なことばかりで、ユニークな時間でした。十六歳と十七歳の青春の思い出に記録したいです。この一年間みんなと出会えて幸せでした。お世話になりました、心から感謝しています。

至宝の一年間

立命館慶祥中学校・高等学校／東北育才学校
李　澤宇
LI Zeyu

昨年九月、初秋の天気はまだ相当暑い頃、私は故郷を離れて憧れていた日本への留学の旅に出ました。東京でのしばしの研修の後、私は一年の生活地の北海道にやって来ました。空港からの電車を降りて初めて北海道の土地を踏んでいた際に、目に映る光景と異国の新たな空気を感じて、人生初の異郷の地での一人暮らしが既に幕開けしたことを実感しました。

先生に携われて興奮した気持ちで寮に着きました。思いがけないことに、迎えに来たのは寮長さんと寮母さんに限らず、寮生たちももう既に玄関に集まって立っていました。初めてのクラスメートとの顔を合わせた時のひとこまは今に至るまで目に浮かびます。40分程度の通学路、初めての登校、クラスの前で正式に自己紹介を行った後、私は正式にこのクラスの一員になりました。先生たちもクラスメートもこの新入りに対して最大の親切を示してくれました。

三週目の週末、私はホストファミリーと会いました。それからは度々週末にそこに行くことに決まりました。娘さんはアメリカ在住なので、ファミリーのメンバーは60、70代のおじいちゃんとおばあちゃん二人しかいません。だんだん慣れてきて、彼らの優しさを感じてきました。おじいちゃんは理容室を経営していますから、わたしも髪をずっとカットしてもらっていました。私は一番好きなのはファミリーと一緒にドライブすることでした。朝日の光に向かって旅立って夕焼けに帰路につくと、のんびりできて悩みがなくなり、沿道で北海道ならではの佇まいを楽しめます。できるなら北海道の隅々までも行きたいです。

学校で私は留学生向けの日本語授業を受けて、様々な留学生の交流活動でも参加し始めましたが、学校生活は順風満帆というわけではありませんでした。三、四ヶ月たった頃、日本語がまだ上手に話せなかった時、周りのクラスメートの話題を理解できないし、自分の性格も明るいわけじゃないし、彼らの会話に入ろうとしてもできなくて、友達が少なかった時期は本当に辛抱しました。その時の私は寮生活も嫌になりました。寮は一人部屋なので夕食を食べてシャワーをあびてから、ただ自分の狭い部屋で、一人で自分のことをやるだけです。話す相手がなくてホームシックになって帰りたい時もありました。ですが、誰でもずっと広々とした平らな道を歩けるわけではありません。茨の道に阻まれたからには、行き詰まっては行けません。それをくぐり抜けて越えるしかありません。一切の困難は経験と鍛練です。そして私はどんどん様々な人と話して、いまでは人々と楽しく話が盛り上がるようになりました。しかもその中で違う言葉での交流の趣が見つかりました。また、この一年間、私は二つの部に入りました。サッカー部と弁論部です。学校のグラウンドで懸命に走ることと、スピーチの中で飛び交わる知恵にぶつかることはどちらも私にとって貴重な宝物になりました。

光陰矢の如し。一年間の幸せの時、うんざりした時、心が打たれた時、泣きだしそうな時もありました。それらからなる私の留学の物語を大切にしたいです。北海道の真冬の雪片のように、この至宝の一年間の留学の断片は私の記憶の空で延々と舞い上がって、やがて私の心の中にそっと落ちました。心の片隅を白く染めて、綺麗な思い出になりました。

やはり私の青春ストーリーは間違っていない

盛岡中央高等学校（2016.9 ～ 2017.3）
岩田中学校・高等学校（2017.4 ～ 7）／河南省実験中学
曹　源
CAO Yuan

一年弱の留学生活が夏休みの始まりに際して幕を閉じた。この一年間、様々な人と出会ったり、別れたり、色々な事柄に立ち向かったり、怯んで逃げたり、曲がりくねった道を進み、ずっと模索していた一年であることは、あの時の私には決して想像もつかないだろう。2016年9月6日、私にとって十七歳の誕生日である上に、整えた荷物を持ち上げて旅立つ日であったということで、私が一歳年を取ってしまうとともに新たな生活を送り始めるのは極めて素晴らしいことを思った。今年は家族と一緒にお祝いはできないものの、もうすぐ目的地にたどり着くと思うと、寂しい心情がさっぱり消えて心は喜びにあふれていた。

私の住むところは下宿になった。下宿というと一人暮らしと変わらなくて、私にとって初めてのチャレンジだった。なぜかというと、私はずっと両親と暮らしてきたものだから、寮さえ泊まったことのない私がいきなりハイレベルな下宿に入ったので少々先のことが心配になった。何にせよ生活はまだまだ続くので、私は生まれたばかりの赤ん坊みたいに、怖いという言葉を知らず、毎日新しい物事に挑んで、毎日楽しかった。

ところで私が来たタイミングが良くなかったせいで、学校では学園祭や体育祭などが終わったばかりだった。しかし、高校生活といえば薔薇色、嘆く暇もなく、すぐに新鮮な学園生活に酔いしれた。どこでも見られる大きいカラスに驚き、部活に励んでいる人々たちが掛け声を張り上げる様子や、きちんとした道が素晴らしいと思った。ところが情熱というものは激しくわき立って、消えていくのも速い。私は「クラスに溶け込み、自分の居場所を見つける」ため、興味のない物事に興味深いふりをしたり、知らないことを知っているようなふりして、だんだん自分の本心を失っていった。そして私の心の中の空は灰色になっていった。他人の意志に迎合し、自分自身の考えを抑える。それがどれほど愚かなことなのかと意識した時にはもう手遅れだった。「ありのままの自分をさらけ出す」ということこそ友達を作ることだ。決して他人が好むことに合わせて、自分を抑圧する仮面をかぶってはいけない。自分の考えや気持ちをさらけだすのは、最初はすごく勇気がいる。なぜなら、否定されるかもしれないからだ。でも、本音で語り合うことができない友たちが、そもそも真の友だちと呼べるのだろうか。本心を隠していればいるほど、仲良くならないのではないだろうか。時は冬、気温が下がりつつあり、私の体に異変が生じた。生まれて以来、体の調子がどうもよくなく、病気がちになった。家では両親からの至れり尽くせりの世話をしてもらっていたが、一人で暮らしていると、体調を崩しても自分一人でやらなければならないことが増えていった。結局いろいろあって、最後には転校することになった。

新しい学校に転入するのは春休み後のことなので、春休みの間、まず別のところにホームステイすることになった。これも私にとって初めてだった。そこにいくことができたのは心の底からよかったと思い、感謝している。ホームステイ先のお父さんお母さんは「世の中にはほんとにこんな人がいるのか、幻みたいだ」と疑ってしまうほど素敵な人だった。「十七歳の時にやりたいことは二十歳や三十歳になったらやりたくなくなるから、今やりたいことをやりなさい」というホームステイ先のお父さんの言葉が未だ耳元で響く。彼らは落ち込んでいる私を太陽の光で照らすように暗闇の中から救ってくれた。

春休みが明け、次に生活する所は寮だった。寮生活は予想通り厳しくて、日常の挨拶に至るまでちゃんとした規則が定められていた。初めての寮生活は不安だったが、予想外にみんなが物凄く愛想のいい人たちで、初日にお風呂まで付き合ってくれた。ここで一生の友になりそうな日本人の友達に限らず、オーストリアやイタリアなどの留学生の友達もできて、あっというまに慣れて充実した毎日を過ごした。壮大な別府地獄めぐり、全力を尽くした体育大会、時間はわずかだけど、素敵な三か月だと思う。ちょっとの間の不注意で私の心は灰色に染まっていたが、やっぱり高校生活といえば薔薇色だった。

私にとって一年間にわたる留学生活では、楽しいことより切ないことが多いかもしれないが、全てが将来の人生にとって必要な体験なのだと思う。

「噂」からはじまった旅

明桜高等学校／福州外国語学校
陳　豪
CHEN Hao

中国人に「日本」と言えば、どういうイメージが浮かんできますか？アニメ大国？そうですよね。日本のアニメは全世界で有名です。私のようなアニメ見ない人も少し知っています。あとは？国民素養が高い、道がきれい…しかし、いいイメージばかりではないと思います。中国でも「日本の社会が冷淡だ」、「日本に溶け込むことは難しい」というようなうわさがよく聞こえます。私はこのうわさがとても気になりました。私は人と喋ることが好きな性格なので、もし一年間、日本の人と喋れなければ、友達ができなければ、この一年はさみしい思いをしていたかもしれません。東京から秋田までの飛行機で、初めて親と別れて留学しに行く私は頭の中でその考えを繰り返して、不安になりました。窓から外の雲を見て、自分は暗雲のように、未来が全く分からなくなる気がしました。

空港に着いて、すぐ目に入るのは、緑でした。自然に囲まれる秋田は緑が多いです。空港を出て、「歓迎留学生陳豪君」の垂れ幕を見ました。一人の先生がそれを持って、私を待っていました。その先生に対する第一印象は笑顔がいいことです。緑と笑顔のおかげで、私の不安が少し晴れました。

すぐ登校日になりました。全校生徒の前で挨拶することを言われました。前のうわさがもう一回浮かんできました。「もしリアクションがなければどうするの？」と思って、すごく緊張しました。しかし、事実はイメージと全く逆でした。ステージに上がる前に知らなくても私に手をふる人もいるし、挨拶の時みんなもちゃんといい返事をしてくれました。その後、廊下を歩く時も、スクールバスを乗る時もよく別な人に声を掛けられました。すごく嬉しかったです。これから、その前者のうわさを信じなくなりました。うわさと言えば嘘だと思います。日本は全然冷淡ではありません。

日本の高校生活を半月ぐらい過ごして、すごく気になったことが一つありました。日本の授業が少ないし、終わりも早いです。大体三時ぐらいに終わります。自分の時間がとても多いです。では、みんなの放課後は何をやりに行きますか？ほとんど部活です。わたしの学校は64%の生徒が部活動に所属しています。私も吹奏楽部に入りました。でもすぐ問題が出てきました。この82人もいる吹奏楽部の中で、音楽的素養が一番低いのは、多分私です。だから、毎回の合奏練習で、私は必ずどこかを間違えて、いつもみんなに迷惑をかけていました。だんだん自分が嫌われているのではと思うようになりました。ある日の練習で、私のリズム感が悪すぎたので、いつも違う拍で入ります。何回やっても、合ったことは一回もありませんでした。嫌気が差して、逃げたくなりました。その時、周りから「1、2、3…」とみんなが私のためにテンポを数える声がしました。「陳君頑張れ」とみんなに励まされました。だんだん、自分がみんなに嫌われてはいない気がしました。その後、自分もよく人に話しかけていました。友達もよくできました。それから、その後者のうわさも信じなくなりました。うわさと言えば嘘だと思います。日本は優しい人がとても多かったです。

吹奏楽部の練習時間は長いので、辛いと言っても過言ではないと思います。しかし、辛くても毎日遅くまで練習して続ける人もたくさんいます。好きなことを一生懸命やることは所謂青春だと思います。みんなが楽器を吹いている様子は、今まで見たことある中で、一番かっこよかったです。

この「噂」からはじまった旅もそろそろ終点に着きます。見方の変化は多分この旅の賜物です。自分の視野を広げて、日本に対するイメージもうわさから、自分の肌で感じたものに変えます。もっと、この日本が好きになりました。

私の留学生活

埼玉県立蕨高等学校／済南外国語学校
劉　冠龍
LIU Guanlong

やっぱり帰る時、気持ちが複雑です。いろいろなことを注意して、いろいろな辛い思いをして、いろいろな感動をして、この一年間が終わりました。

二年生になった時、埼玉の天気が日本へ来た時のように爽やかです。その時、教室の外の廊下に立って、空が高くて澄み切っていて、向こうから来る風が来日時の思いの匂いをしています。初めて日本に来て空港で見た9月の空と一緒です。

一番感じたことは自分は確かにこの一年間日本で一人になりました。本当に家族と友達と学校を離れた後、心の中には大きな空白ができています。前はいつも一人でも全然平気、一人の方が楽な思いを持っていましたが、やっぱりその人たちが私の命の中にとても大切な一部分です。けっこう忙しかった時期もありますが、疲れた時、伝えたい人がそばにいません。

そして、いろいろなホストファミリーやボランティアの人たち、先生方や友人たちに出会いました。たくさんのサポートをもらいました。自分がしっかりやってないところが多いので、悔しいです。だんだん慣れてきて、話す時自分がだいたい相手の態度がわかるようになりました。自分と話したくない人は、顔も視線も冷たくなるのです。すごくきついのは、いま他の人ととても楽しくしゃべってる人が自分と話す時、急に冷たい顔をすることです。一瞬、千里も離れていることを感じました。でも、たくさんの人たちからサポートをもらえて、優しい視線をもらえて、嬉しいです。その人たちに、ありがとうを言いたいです。そのおかげで、一番辛い時ももう一回勇気を出して生活しています。

辛いことでも、楽しいことでも、考えると、奇妙なことです。16歳から17歳になる自分が違う国での生活に慣れました。1年の経験で一人で電車に乗ることがとても信じられないことです。一年間で自分は日本語をちゃんとしゃべれませんでした。バスケ部の先生が他の学校に転校する時、私たちに「この一年間、皆はすごく成長するの」という話をしてくれました。日々で感じられない小さなことも、今思うと大きな変化が起きました。いいことでも、悪いことでも、落ち着いて穏やかに受け入れることをできるようになりました。

これから、この一年間のことをだんだん忘れるようになります。でも、たくさんのことが記憶の中に輝いています。運動会で書道部の友達と一緒に飴を投げる時、飴が風で途中落ちたこと、自分が陶芸で作ったかっこ悪い筆筒も完成したこと、先生と一緒に神社に行った時先生とこの神社との物語を聞いたこと、ホストファミリーの弟が朝私の布団に入って寝てたこと…すべて忘れたくないです。いつか忘れるかもしれませんが、それでも、一年間留学したことを思い出して、満足です。

初志貫徹

東京学芸大学附属国際中等教育学校／天津外国語大学附属外国語学校
張　義澤
ZHANG Yize

ちょうど一年前に「すべて」が始まりました。面接や来日の前日のことを思った、心が澄んでいて記憶の中からクリアに浮かんできました。いや澄んでいるのは嘘、自分の出来事といっても今と比べるともうちょっと青くて未熟している自分の緊張している姿はなかなか消えず、今でも思い返すとドキドキするぐらいです。

未だにもよく覚えていますが、面接のときに東京はいきたいですかって聞かれて、東京は土日に遊びにいくぐらいでいいといって、また日本の田舎に興味を持ったことや日本語でも英語でも交流できればいいことを答えました。質問を答えるために言ったのか、確かに（やらないと）自分も戸惑ったりしていました。でも一瞬に考えたことでもいいですが、それはこの一年間の経歴を振り返ってみると自分の成長を証しに私は「思った」通りにできたと思います。

来日研修の時に浅田先生が私に「Inner Peace」という言葉を教えてくれました。正直自分は「心」のマネジメントあまり気にしなかったが、実はそれは人間関係を築くことに大事なことだと部活動を通してよくわかりました。

バスケ部でゲーム（練習）をする時にいつもの自分と違ってよく落ち着かなかったり切れたりしていました。そこで自分がそのままでコントロールもせずにストレスが逆に発散できなくて自分のプレイでも悪くなったことを気付いたけど、何が原因かわからない僕に先生が注意してくれたり友達が話してくれたりまたバスケを通して僕をわからせたり自分の中でも理解していき時には友達にもアドバイスをあげたり、悩みを聞いたりしてとても有意義な交流ができました。

こうやってinnerなことが周りの人とのouterな交流で心豊かに部活動を体験して留学生活にも多大な支えになりました。

Tguiss（東京学芸大学附属国際中等教育学校）＆横田さんのホストファミリーで過ごした一年間には色々な人と出会いました。初心の願望が叶えたようにTguissではグローバルな雰囲気で学校の授業は中国の高校とのやり方が違って面白い課題や学校外での探求ワークがあったり、グローバルカフェで国際企業の方や専門家の話を直前に聞いて質問したり、たくさんの訪日生や外国人の留学生と交流したり、日本語教室で大学生の先生と友達ができたり、スクールフェスティバルやスポーツフェスティバルでの騒ぎと大切な思い出があったり、自分が日本に持っていたイメージを改めて変わった本当に素晴らしい学校です。

素敵なホストファミリーのおかげでではもう一人のフィンランド人の留学生エリックがいて、いつも兄弟のように助けてくれるし、自分も日本語に関してできることを教えたし、最初の頃はお互いになれなかったりしましたが、今になって本当に毎晩話して、お互いに支えあって心と心の絆を感じる幸せな毎日を送っています。

ホストマザーの横田さんが色々な地域の環境改善やスポーツ大会などのボランティア活動を応募してくれたり、料理を作るのを体験させたり、困るときにいつも話しかけてよく自分の気持ちをわかって導いてくれたり、とても偉大な母だと思います。またホストファザが中国文化と中国語に大変興味をもったので、両国の文化や昔々の歴史までよく話し合うことによりお互いの国のことがよくわかっていろんな面から日本のことがわかりました。

今の私は日本に来る前に思った以上楽しんでます。この一年間の全部の一期一会な出来事と大事な初志が一生の幸となります。

自分に挑戦しよう

横須賀市立横須賀総合高等学校／東北育才外国語学校
孫　瑞雪
SUN Ruixue

三年前、私は中三の教室で、日本へ留学し、帰ってきた先輩の発表を聞いて、初めて「留学とはこういう感じなのか」のイメージを抱いた。そして、その時先輩が言ったような留学での充実な生活に憧れを持ち始めた。高校生の私にとって、それは貴重な機会だった。「一生に一度の経験になるかもしれない。」と思ったが、私は外国で一年間暮らす自信がなかった。しかし、それよりも留学をしたいという気持ちが強かった。そして私は日本への留学を決断した。

この一年間を振り返って見ると、大変なこと、辛いことも多くあったが、沢山の素敵な人たちと出会い、本当に充実した楽しい生活であったと感じる。実際に日本での生活を体験し、日本文化や社会様々な習慣を理解し、多くの人とであった。その中で、改めて日本の魅力を感じた。

時間がある時は自分でいろんなところへ行った。美術部で鑑賞として何回も上野の美術館や博物館に行った。伝統的な建物が好きだから、鎌倉にも三回ぐらい行った。「この学校来てよかった」と何回も思った。神奈川県にはたくさんの名所旧跡があるし、学校では、行事や国際交流が多い。でも私にとって一番大事なのは学校の先生たちと友達だ。本当に優しくてみんなにお世話になった。

最初来た時ずっと不安だったが、先生たちは親切で、クラスメートは熱心だし、私をたくさん助けてくれた。文化祭でみんなと一緒に努力して、来たあとすぐにたくさん友達ができた。それでも最後の二か月はちょっと悔しくて、「もっと明るく、多くの人に声を掛けたらよかったなぁ」と感じた。みんながいるから、私はまだ帰りたくない。私にとってこの一年は、一生忘れたくない貴重な思い出だ。

中国にいた時日本の高校の部活動を楽しみにしていた。もとは剣道など日本でしかできないことをやりたかったが、結局大好きな美術をやっていた。この学校の美術部は強くて、毎日部活があり、私も今までにやったことのない大きい画面の絵と立体を挑戦して、最初から最後まで頑張った。それに日本の高校生として、賞をもらえて嬉しかった。この一年間で私は何回も挑戦した。部活のことはもちろん、箏曲と書道もやってみた。体育でもやったことのないソフトボールと剣道と柔道を選び、学校の「ライフデザイン」の発表も一生懸命頑張った。こんなことまでできるとは思わなかった。頑張ったら何でもできる、時間をかかってまじめにやったら何とかなる。沢山のことにチャレンジして、自分の極限を探し、自分自身をもう一度発見した。これらは中国の学校では習えなかったことだと思う。

私は中国にいたときは、行動をするより、頭で考えていることのほうがずっと多かった。失敗したらどうしようという恐怖心から、挑戦する勇気も失くしてしまっていた。日本に来てからは、なんでもチャレンジしてみようと頑張って、恐れずに、どんなチャンスも無駄にしないようにがんばった。この機会にいろいろなことに挑戦し、人のためになるようにがんばりたい。だって日本の人たちはまるで自分のことのように、他人のことも大切に考えてくれる人たちばかりなのだから。

まだまだ若いんだから、あたってくだけろ。そしてなんでもチャレンジしよう。

あたってくだけてしまっても、そんなのはたいしたことはないから、何も恐れることはない。

この一年間は、私の今までの人生で一番幸せな一年だ。

一年間の感想

敦賀気比高等学校／石家荘外国語学校
趙　祖巍
ZHAO Zuwei

来る前、実際は大変緊張でした。夜寝るときでも、なかなか寝付けませんでした。はじめてルームメートに会うときやはじめて登校に行くときまで、どうやって扱ったらいいか考えられていて、どんな自分を見せようか、こちらの生活はどのようになるのだろうと不安でした。

駅で迎えてくれたのは浅田先生でした。浅田先生はまじめな印象で、加えて、ルームメートも内気で、あんまりしゃべれなかったから、もっと緊張になりました。学校に行ったら、親切すぎる人もいれば、自分を無視する人もいるし、人の話の意味も理解できないし、やっぱり芳しくできなかったのです。担任の授業でいろいろ聞かれたとき、何かを言った時大騒ぎでしたが、何を言われたか全然分からなくて、おかしいところでもあったかドキドキして十分気まずかったです。そのあとも毎日このようなまずい状況でした。あまりものをはっきり言わない日本の習慣になかなか慣れなかったのも事実です。だが、やっかいなこともあるが、優しくあいさつされることもあります。誰でもいつでも気に入るわけではないし、人はそもそも違うのです。たいしたことじゃないだけは気にしなくてもいい、また、いろいろがあったから、何が起こったとしても、実際はそんなに大変なことではなく、できるだけやったらきっと何とかなるということを感じました、心も強くなって、くよくよして戸惑うより、とりあえずやれる。これがたぶん日本での一番の獲物だろうとおもいます。

日本と日本人について、最も深い印象と言ったらそれはたぶん「極端」ということでしょう。もちろん、ここの極端は悪い意味ではなくて、極端こそ得手があるんです。特に、完璧な腕にこだわる職人たちに感心しています。ただ一本のシャープペンにさえも、いろいろ巧みに設計されて、違う会社では全く違う一風になっています、中国ではたぶんどこでも全く一緒なペンを作るので、想像できませんね。あとは、部活動が授業よりも大事に見られているのも驚きましたが、これは学校によって違うと思います。

最後に言いたいのは、国が違う、言葉が違うとはいえ、我々のことは彼らにも時々ある、彼らの物語にわれわれにも感動している、もともと同じものだから、みんなの心も同じだと思います。

一年間の感想

長野県長野西高等学校／太原市外国語学校
郭　倩鈺
GUO Qianyu

去年5月の時、面接を受けました。7月の時、結果が出て自分が合格したのを聞いて本当にうれしかったです。その時、日本に行くことについて心配とか楽しみとかいろいろな感情がありました。あっという間、一年間が経て、日本に残る日はもう40日しかありません。一年間、いろいろな思い出があって私に対して非常にいい体験だと思います。

来日研修の時、初めて国際教養科の先生に会って、とても緊張しました。先生と一緒に新幹線に乗っていろいろ話しました。一番印象深いのは先生が「長野県の有名なことは山、空気は日本で一番きれい。」と言いました。長野県に来てやっぱり空気がとてもきれいです。気持ちもよくなりました。クラスメートと初めての会うのについての不安も減りました。初めてクラスメートと会ってその時は髪が短すぎて男子だと思う人もいました。みんな優しくて色々な問題が出してくれました。クラスでは二人は中国語が話せるからいろいろ助けてもらいました。7組に来て新しいメンバーとしてみんなと一緒にクリスマス会とかバレンタインとか面白い思い出がいっぱいありました。特にバレンタインの時、7組の女子たちは女子力がとても高くてチョコもとてもおいしかったです。今はみんな一生懸命に合唱コンクールのために努力していて絶対1位を取る自信があります。最後の文化祭一緒に楽しく過ごそうと思います。また元気な7組に会えると思います。

部活は茶道に入りました。日本に来る前にずっと茶道班に入りたかったです。日本の文化に興味があって理解したかったですから。今はもう日本のお菓子が好きになりました。特にくるみのお菓子です。日本の精巧な和菓子も大好きです。茶道班は週に一回で最後の時、みんなと一緒にお菓子を食べたり抹茶を飲んだりしています。一番辛いのは正座で毎回足がしびれてしまうことです。今は正座できる時間は長くなりました。茶道は毎回楽しく過ごしました。いろいろな友達に会えて本当によかったです。7月初の文化祭で浴衣を着て部活の展示をやるのでとても楽しみです。

あとは日本に来て一番幸せなことは今のホームスティの家族に会えたことです。家族は五人兄弟がいて、とてもにぎやかな家族です。おばあちゃんとお母さんは料理がとても上手だと思います。毎回の誕生日パーティーは感動を与えてくれました。一番印象残ったのは12月31日の時、ちょうど妹の誕生日と2016年の最後の日でした。一番盛り上がったです。9個のケーキを買って、ジャケンポイでケーキを選ぶ順番を決めました。とても楽しかったです。3月の母の日もいい思い出になりました。同じ学校に通っているAちゃんはケーキを作ってみんな一緒にお母さんに「ありがとうございます」と言いました。本当に感動しました。自分はいろいろな問題がある時もみんな親切に教えてくれました。おばあちゃんは日本の文化などを教えてくれました。本当に今までありがとうございました。

時間は速くて、そろそろ中国に帰る時間になります。まだ残りたい気持ちがあります。いつか、長野県に戻って、友達と家族と会えると思います。

日本生活の感想

静岡学園高等学校／長春日章学園高中
鄭　桐
ZHENG Tong

羽田空港に着いてから青空に飛行機で雲のような白い線を行くのが見えた、胸で浅く息をしていた熱い頬さました風も覚えてる、未来の前に手足が竦んでいた。（※千と千尋の神隠しのテーマソング「いのちの名前」を一部引用）

知らない所で知らない言葉を知らない人たちと喋っていて怖かった。でも、3組の女子たち全部親切で優しい人で特に私のクラスバディという人いつでも日本語全然出来なくても詳しく説明してくれて、最初不安な気持ちがだんだん穏やかになった。

初めての授業は体育で先生が可愛らしいだった。授業中でドラゴンボールの主題歌を歌って私は聞いた後わくわくしていたから隣の人たち日本のアニメについていろいろな話をして友たちもたくさんできた。

日本語の授業でたくさん日本の伝統的なこと、日本の遊び、行事など勉強した。例えば百人一首の読み札の絵柄で行う遊び坊主めくりというもの、ひな祭りで人形で飾る、こどもの日で男の子の成長を祝って立てる鯉のぼりというもの。こんなみたいな日本文化を知って嬉しい。

初めての学校行事で体育祭を参加した。日本と中国の体育祭でやること少し違っている。中国のはオリンピックのようなハイジャンプや砲丸投げなどたくさんある、でも日本のは、大体二人三脚みたいなのみんな集まって一緒に頑張って勝つものだから、仲よくできる。それであの日で友達と友情が深まった、知らない人と友達になったとても楽しかった。

でも、楽しいことばかりではなく最初に入ったバレー部は辛いことがあって、新しい部活で美術部に入った。顧問の先生は番先生という81歳のおじいさんです。最初入った時、怖い変わった人かと思ったけどずっと話してどんどんおじいさんが実はとても優しくて可愛いおじいさんだと分かった。日本生活始まった三ヶ月後ホームシックでストレスがいっぱいたまったけど番先生と毎日話して、気持ちがよくなって日本語も上手になった。最初ホストファミリーは厳しくてルールがたくさんあったので大変だった。ルールを守らないとよくしかられ、苦しかった。毎日ベットで隠れて泣いていた。今まで楽しいことがあるし大変なこともあるし、でもこれらは全部わたしの成長するための経験だと思う。新しいホストファミリーも手伝ってくれて毎日おいしいご飯作ってくれて、病気になったときホストファミリーのお母さん忙しくても病院に一緒に連れていって感動した。

この10ケ月間心連心先生、ホストファミリーの皆さん、友達、学校の学生、電車で定期を拾ってくれた人も、こんなずっと応援してくれて手伝ってくれた人たちに感謝しています。

10ケ月間の思い出一生忘れられない！

一年間の留学、一生の思い出

光ヶ丘女子高等学校／東北育才外国語学校
郭　曼玉
GUO Manyu

私が中二の時に、日本から帰って来た先輩の留学生活のレポートを聞いたのをきっかけに、自分も一年間の留学に行きたくなりました。そのために、中三の選択科目で日本語を選びました。12年間寮に住んでいたので、自分は結構自立した人だと思っていました。しかし、外国に自分で1年間を過ごすことには不安があったので、多くの人に聞いたり、インターネットで情報を調べたりして、このプログラムに参加した後のメリットとデメリットを2年間ぐらい真剣に考えました。自分で参加すると決めたのは、今までで一番大きな決断でした。

9月4日、北京に到着し、心連心の皆さんと初めて出会いました。全国から選ばれた31人はすぐに友達になって、1年間の留学生活を楽しみにしていました。飛行機の窓から日本列島が見えた時は、日本に着いたことにまだ実感が湧きませんでした。未来は知らないことばかりだけど、必死に頑張るしかないと思いました。そして私の留学生活は始まりました。ホストファミリーの皆さんは、私を家族の一員として迎えてくれました。慣れないことはたくさんあったけど、困った時はすぐ先生やホストマザーに聞いたりして、毎日の生活が楽しくなって行きました。岡崎での生活は別世界のようで、日本でしか体験できないことをたくさんしました。私の学校は女子校でしたが、ドラマの中の女子校とは全然違い、実際行くと、みんな優しく熱心で印象がすごく変わりました。私にとっては、普通の女子校生活がとても珍しいものに感じました。

私を一番影響させたのは光ヶ丘のダンス部に入部した事です。ダンス部に入って、先輩方のキラキラな姿を見て、自分も先輩方のようになりたいと思いました。学んだ事はダンスだけではなく、毎日誰にでも笑顔で大きい声で挨拶すること、他の人のアドバイスをちゃんと聞いて、心から感謝すること、何事も必死に頑張ること、仲間を信じること、自分の誤りに反省することなどたくさんあります。光ヶ丘のダンス部はみている人を笑顔にさせる魔力があると思います。私もその魔力でもっと多くの人たちを笑顔にさせたいです。

この1年間学んだことは思っていた以上にずっと多く、私は成長し、心が強くなりました。1年間はあっという間だったけど、こんなに多くの優しい人に出会えて、私は幸せ者です。この1年間の思い出は一生の宝物です。

日本、さよならじゃなくて、またねー！！！

私の一年間

桜丘高等学校／武漢外国語学校
劉　伊
LIU Yi

私は愛知県豊橋市桜丘高校の高等部で一年間留学しました。平日は寮に住んでいで、休日は予定がなかったらホームステイに行きました。この一年間はいろいろ勉強になり、本当に成長できたと思います。

まず初めに学校について紹介させていただきます。桜丘高校は普通科、英数科、音楽科、高等部があります。校舎は二つに分かれていて、高等部と中学校が一つの校舎にあり、ほかの三つの科が一つの校舎にあります。高等部はほとんど桜丘中学校出身の生徒と海外からの帰国子女や留学生です。一つのクラスしかいないのでクラス替えはなく、人数が少ないから名前も覚えやすいです。先生はとても親切で、わからないことがあればいつでも熱心に教えてくれました。寮に住んでいる生徒のほとんどは普通科の生徒で部活がとても忙しいです。部活は大変だから夜九時の点呼にも時々遅れることがありました。でも会う時お互い挨拶したり面白いことを教えあったりして、すごくいい雰囲気でした。寮母さんもすごく親切な方で、時々私の話を聞いてくれ、寮生と友達のように仲良くして下さいます。

次はホストファミリーを紹介したいと思います。上脇さんは毎年留学生を受け入れてくれています。お母さんはとても若くやさしくて、お父さんはあまり話さなかったけど、とても親切でした。7歳の男の子と5歳の女の子は明るくてすごくかわいいです。私は子供が好きだから二人と仲良くしていました。

豊橋での生活が始まった時、生活必需品を買うために寮母さんと先輩達が連れていってくれました。みんなの前で挨拶した後、同級生も私の部屋に来て学校のことをいろいろ教えてくれました。1番びっくりしたのは初めて学校に行く日に国語の夏休み課題テストがあったことです。受けるしかなかったのでクラスメートから課題を貸してもらい、10点取れるかなと思って受けました。結局30点くらい取れて、とても嬉しかったです。担任の先生との面談で、日本の生活で何が一番びっくりしたかと聞かれたとき、その国語のテストだと答えました。

もちろん最初はちょっと慣れなかったけど、どんどん友達ができて、部活もいろいろ悩んだ後、料理部と弓道部に入って、少しずつ日本での生活も慣れていきました。料理部のみんなが優しくて、料理を作る時は本当に楽しかったです。弓道部の部長もすごく親切で、弓道のやり方を全部教えてくれたと言ってもいいぐらい面倒を見てくれました。最後は自分の都合で弓道部をやめたけど部長に本当に心から感謝しています。

4月から担任の先生が変わったことは寂しかったけど、新しい担任の先生はとてもユーモアな人で、授業もどんどん進み英語はいろいろ勉強しました。クラスの生徒にも気を配っていて、もし何か病気があったら体調を何回も聞きます。本当にいい先生達に出会って良かったです。

この1年間いろいろな体験をしました。友達の家に2回、一泊で遊びに行き家族とも仲良くしました。もう1人の友達とは名古屋とディズニーランドとUSJにも遊びに行きました。学校ではクエストカップというプレゼンの大会で賞をいただき、2回も東京で発表しました。特に第2回はクレジットカード会社の本社で発表して、ビルの59階にあるレストランでご飯をご馳走してくれました。日本語の勉強も、最近の模試で国語のテストはクラスで4位の点数が取れて、ほかは全部1位だったから本当に達成感がいっぱいでした。

残念なところももちろんあります。例えば弓道部をやめたことや、寮に帰った後携帯を触っているばっかりであまり寮生としゃべらなかったなどです。でもこれも懐かしい経験としていろいろ勉強になりました。

この1年間の思い出は一生忘れられないです。日本について中国の友達や両親に話したいこともいっぱいあります。本当にいい体験でした。皆さん、有難うございました。

見たこともない景色

三重高等学校／成都外国語学校
張　雨瀟
ZHANG Yuxiao

人生のどの時点でも、どこにいても目に映る景色は、見たことのないものばかりです。

大冒険のような一年間がもうすぐ終わります。日本への留学で見たこと、経験したこと、得たことは、心の中に唯一無二の景色を描いています。

学園祭と体育祭から学んだこと

日本に来た時、ちょうど学園祭に間に合いました。私は日本の映画の中で学園祭のシーンを見たことがあったので、学園祭に参加している自分は初めて日本の高校生の雰囲気に包まれていると感じました。この行事を通じて、私は日本人の組織力の強さと行動力の速さを感じました。このように感じながら過ごした一年の最後に体育祭がありました。朝から雨模様でしたが、みんなの気持ちは雨に負けず、体育祭は雨中で実施されました。みんなは雨の中を駆け回って、必死で声を出し、頑張って応援して、とても盛り上がりました。皆と協力することはやっぱり一番大切なことです。体育祭は、青春の証明であり、友情の証明であると思っています。

自転車から転倒！

大変だったのは、日本に着いて間もない頃に自転車で川に落ちてしまったことです。私に気付いた数人の男の子が川に飛び降りて助けに来てくれたことに、私はとても驚きました。彼らは私の自転車と重い鞄を押し上げ、引っ張りあげてくれました。さらに彼らは自分たちを踏み台にしてくれ、私はそこに乗り手を伸ばし、上から引き揚げてくれました。川からあがると、タオルを持った子が待っていてくれました。何人もが心配そうに私を見ていました。彼らは話し合って、飛び降りることに決めたのではないのです。すぐさま躊躇いもなく飛び込む人が身近に何人もいるとは思いもよりませんでした。1 人、異国の地で、このようにしてくれたことに感動しました。

日本の部活動

日本での高校生活が順調に進むようになってから、部活動に入りました。最初私は弓道部に参加しようとは思っていませんでしたが、袴を着てかっこよく弓を引いていたことに憧れて、自分より大きいな弓を引けたら、とてもかっこいいと思ったことが弓道部に入部するきっかけになりました。簡単な動作から、ゴム弓、そして 11kg の弓を引けるようになって、最後に的に当たりました。一年間を過ごして、弓道についての理解が深まりました。「礼儀、正射、心など多くの要素が求められる弓道」、「極限の集中力を身につける弓道」、「不動の心で、静かなる弓道」。人に良いとこを見せたいとか、人に勝ちたいとか、そんな気持ちじゃなく、自分を律して、動かず的を射るのは自分の心の反映です。ですから、弓道は自分との闘いです。弓道も相場道も人生論も通じるところがあります。

お世話になった人たちについて

この一年間、毎朝いつも自転車に乗って、早く学校へいきます。なぜなら、秦先生のところで音読をしに行くからです。私は秦先生のことをとても尊敬しています。彼は教育にとても熱心な方で、いつも人生のことを教えてくれました。

ホストファミリーのお母さんは非常に素晴らしい人です。お父さんはイケメンで、彼らの息子さんはサッカーが大好きです。この一年間彼らと過ごしたことは永遠に心に刻まれる大切な経験になりました。本当に今までお世話になりました。

まとめ

留学前、私は日本人の考え方、中国に対する見方を変えたいと思っていました。そして、彼らに中国を深く理解してもらいたいと思っていました。私は自分の目的を達したと思っていますが、実際に、彼らも知らず知らずのうちに私を変えていました。きちんと人の意見に耳を傾けること、きちんと感謝の気持ちを伝えること、礼儀正しく接することなどです。

帰国する前に、秦先生と一緒に三重県の青山高原へ行きました。そこから三重県の全部の様子が見えます。「見て！そこ！そこ！高くて、白いビルがあるところは松阪ですよ！」と先生が言いました。そして、私はその光景を前にして、目を閉じて、両手を広げて、三重県の上の空からの風を感じました。その瞬間、この一年間の感動がこみあげて来ました。どんなに時が過ぎ去っても、決して忘れないと。

この一年間は非常に長いようで、とても短かったです。しかしこの一年は、短いが故に貴重です。みんなと過ごせたのは人生の中のすばらしい時間になりました。

ねえ、数年後、私たちは再度出会って、その時の私達自身のなりたい自分になっていることを願っていますよ。

「見たこともない景色」最近、偶然にこの歌を聞きました。初めて聞いた時、菅田将暉さんが心から想って歌ってくれていると感じて、うれしくて励まされました。

2016 年 9 月から 2017 年 7 月まで。見たこともない景色。三重県でしか見えない景色。

Thank you everyone making my life in Japan memorable.

京都映像

京都府立鳥羽高等学校／武漢外国語学校
楊　正琨
YANG Zhengkun

初めまして、京都。眩しいガラスに飾られた高層ビルではなく、白や淡い桃色の家々が並んでいる。京都は大都市であるが、人は多いが、何かに追われることなく、自分のペースで歩いている。市内からちょっと離れて、また別の光景―山に囲まれ、木や花や自由に伸びている姿を楽しめる。

伝統文化といえば京都。世界有数の古都として、日本特有の文化を積極的に発信し、かけがえのない役割を果たしている。知られているのは京都の古い建物―「金閣寺」「清水寺」などかもしれない。しかし、八坂神社の前で街頭アンケートを実施した時、道案内しているボランティアのおじさんたちを見て。そのこと自体一種の文化の承継ではないかと思った。「おもてなし」という姿勢は確実に伝わってきた。

京都の雰囲気とふさわしく、鳥羽高校の校舎は煉瓦で建てられ、百年近くの歴史を持っているもの。進学校で、勉強だけでなく、礼儀正しさも非常に重視されている。国際交流に高い関心を持ち、私の学年からグローバルコースが開設され、今年は第二外国語の授業を含むグローバル科が開設された。

「一年間って、多分マラソンぐらい長いでしょう。」

スタートラインに立っていた私はこう感じた。この一年間、たくさんの人と出会った。学校の先生や同級生は言わずもがな、短期ホームステイで来たアメリカの留学生ブラットリーとイタリアの留学生エミーと兄弟になって、一緒に山に登ったり、旅行したりした。ホストファミリーは長年、世界各地の留学生を受け入れていて、グローバルな生活を過ごすことができた。

スケートやバレエに行った時、その場に来ていた「ママさん」達と知り合って、自分より上の世代の方と友達になった。よく言われたのは「日本と中国が仲よくできたらいいな」。自分たちの責任を再び認識した。

この一年間、たくさんの事にチャレンジした。

登校初日、生徒会会長と副会長に連れてもらって、各部活見学に行った。そこで、将棋に魅了されて、プラス少し勢いで将棋部に入部した。最初の８枚落ちから、６枚落ち、２枚落ち、今は落ち駒なしで指している。技術面も、精神面も成長したと思う。

それ以外、模試を受けたり、大会に出たり、一人旅に出たりして、充実した一年間を過ごした

振り返ってみれば、一年間は夢のような、ほんの短い間だった。今まで当たり前に過ごしてきたが、いつの間にか、ゴールが見えるようになった。

今いる京都は、二度と戻れない。もし次、同じ京都に戻ったとしても、その時はもう高校生の私じゃない。そう、今だけ。

ちょっと暑苦しい理科講義室、深く眠っているピアノ、開けた窓の外側から吹いてくる風または合唱曲、時間がゆっくり流れていく。

ほんのちょっとした偶然で出会った人たち。こうして目の前の君と話すのも、たくさんの偶然が相互作用してできた奇跡と言えるだろう。百年の人生にとって、一瞬光るものに過ぎないけれど、その輝きは、心に刻まれたはず。

すべての終わりは新たなる始まりである。

さよなら、京都。

そして、また…

日本での思い出

立命館宇治中学校・高等学校／武漢外国語学校
周　冀龍
ZHOU Jilong

一年間前の私にとって、異国の高校生活というものは、自分のライフスタイルに全く違うものでしたが…自分は急に留学という選択肢を選択して、日本に来ました。夢みたいです。

来日研修最終日。新幹線に乗って東京から出発、途中で友達が「がんばろ！！」って励んで降りていきます。京都駅に到着した時、自分はもう「一人」になりました。寮に到着した後、ハウスマスターが優しく中国語が話せる寮長を紹介してくれました。晩ご飯は英語ができるibクラスの人と食べました。不慣れなことばかりでした。

学校初登校の日。制服はまだもらっていなかったから、自分が持って来た制服を着て、学校に通います。国際センターにいって、挨拶した後、校長先生にあって、いろいろと話して、学校掲示用の握手する写真を撮って、クラスに入ります。なんだか「外交官」みたいです。全てが日本語の教科書を見た時、難しいと思わなかったが、とても心細い感じがしました。休み時間、みんなが自分の名前を言ってくれて、ちょっと恥ずかしいですが、とても楽しかったです。

毎日6時半に起きて、顔を洗い、歯を磨き、朝ごはんを食べます。ルームメイトと一緒に7時半のバスに乗って学校に行きます。登校する時は、いつも宇治橋を渡っています。下にある宇治川はいつものように平和に流れています。朝礼の後は読書の時間。授業は先生に従って、勉強していきます。放課後は剣道部、一年生に先輩だと呼ばれていますが、剣道の技はそちのほうが先輩です。部活の仲間と毎日稽古します、しんどいながらも達成感があるから頑張っていきたいと思います。部活が終わって寮に帰ります。お風呂に入って一日の疲労感を解消しました。ご飯の後は宿題をやります、暇な時は友達を呼んで自分の部屋でテレビゲームやカードゲームをやります。こんな風に今まで過ごしていました。充実していました。

年末年始は、ホストファミリーの家で過ごしました。8時半の目を目覚めて、ベットで少しダラダラして9時に起きます。美味しい朝ごはんを作ってくれたホストファミリーのお母さんに挨拶します。そろそろ新年だから、祝いのものを一緒に買いに行きます。おせち料理を一緒に作って、新年を祝います。夜、自分の父に電話しました。父は「新年快楽」と言ったら、わかってくれました。紅白歌合戦をみて、特別な新年を体験することができました。

今でもよく覚えているのは、寮のハウスマスターのことです。非常に恥ずかしいことですが、去年のある日寝坊してしまって、顔も洗わずにバス停に走りました。しかし、バスには間に合いませんでした。それは授業に間に合う最後の便で、次のバスは最低でも一時間後になります。どうすればいいのかわからなくて、バスを追いかけたものの、全然意味はなかった。自分はとても慌てて心配しました。そう考えながら寮に戻った途中で同じ制服を着ている人が学校の方向にゆっくり歩いているのを見て、まだ学校に行けるじゃないかって思って、その人達の後ろについて行きました。でも、結局違いました。もう泣きそうな気分で、寮に走って帰りました。出発してからもう2時間ぐらい経っていました。寮にもなかなか入りにくくて、躊躇っていたがどうしようもないから入ったら、ハウスマスターに見られてしまいました。そしたら、笑顔で聞かれました。「早く帰ったの?」と。私は何も言えなくて誤魔化しようと思いました。しかし、ハウスマスターは私の様子を見て、最後に「何も考えないで、部屋でゆっくり休んでおきなさい！」と言ってくれました。泣きそうなくらい困っていた時に、優しくしてくれたこと絶対忘れません！！

この様なことはまだまだたくさんあります。こんな優しい人々が私を見守っているからこそ、私は順調に生活ができました、心から感謝しています。　日本での留学生活は本当に素晴らしい体験でした。また、ぜひ戻ってきたいです。

日本での一年間

大阪府立桜塚高等学校／天津外国語大学附属外国語学校
趙　津
ZHAO Jin

時の経つのは速いです。いつの間にか、来日でもう10ヶ月経ちました。私はもうすぐ中国に帰ります。東京に行って、10ヶ月前の来日研修の様子が目に浮かびました。楽しさと不安、ホームシックと新しい生活への期待、その時の私は、とても複雑な気持ちを持っていました。

大阪に行ったばかりの時、日常生活の習慣は中国と全然違います。私はそういう違いにとても興味を持って、頑張りました。

初めて学校に行った日は文化祭で、びっくりしました。みんな不良だと思いました、なぜならば、文化祭なので、みんなが制服を着てないで、私服で学校に来ていました。そして女の子はお化粧などをして、金色や銀色の粉を顔にいっぱいつけていました。そんな中国の学校と全然違った状況を見て、不安な私はもっと心臓が飛ぶようにドキドキしました。「みんなと仲良くできるかな?」「私はメイクもできないし日本語もあんまりペラペラ喋れないし嫌われるかも…」そんな気持ちを持って、私の学校生活が始まりました。

日本人の女の子たちはいつもグループで行動していて、一つのクラスはいくつかのグループに分かれています。そういうグループに入るのは留学生にとって、とても難しいと思います。みんなはとても優しくて、いろいろなことを教えてくれましたけれども、やはりグループに入って、日本人と本当の友達になるのはなかなかできなかったです。でも、二月の時、私はクラスのみんなと一緒に修学旅行に行きました。この修学旅行は本当に楽しくて、そして、いいチャンスとして、私と日本人の間の見えない"壁"を破りました。

二学期の時、クラスが変わって、いっぱい友達を作って、日本人と本当の親友になりました。体育祭の時も、みんなは遠い公園まで行って、夜遅くまで練習しました。疲れましたけど、みんなと一緒に頑張るのは本当に楽しいです。桜塚高校の第70期生本当に大好きで、離れたくないです。

私はこの10ヶ月ホームステイをしました。ホストファミリーにはとてもお世話になりました。毎日私のために料理を作ってくれて、いつもいろいろなことを教えてくれています。人生についての話、どんな状況は何をやればいいなど、本当に私を自分の子供のように見て、教えてくれます。中国人と日本人のコミュニケーションの違いにより時々意見が衝突することもありましたが、ホストファミリーは時間をかけて話をしてくれたので私も理解できました。私が出会ったホストファミリーはとても優しいと思います。自分の周りの人に対して、いつも他の人のために考えています。私も影響されて、いろいろ勉強になりました。

今の私は離れたくないですが、帰国したい気持ちもおおいにあります。この10ヶ月を今から考えれば、泣いた時もあるし、笑った時もあります。日本で留学する経験は私を変えました。「自立」「自律」「自強」、いろんなことで成長しました。そして、少しでも、私は自分の力を入れて、日中友好のために頑張りたいと思います。

順風満帆でないからこそ

大阪府立夕陽丘高等学校／上海市甘泉外国語中学
万　美池
WAN Meichi

言語の言葉を超えて、今の自分がいる。

日本語勉強を始めて、日本については多少分かったつもりになっていた。同じく米を主食としている日本の生活は大して中国と変わらないと思っていた。しかし一歩出せば、全く違う世界が待っていた。

大阪についたばかりの頃、自分の言いたいことは頭の中で長時間考えながらでないと話せなかった。周りの人はみんな熱心に話しかけてくれるが、返事はなるべく短く、簡単なものにしていた。両親に悪い印象を与えたらダメと注意されて、自分についても話そうとしなかった。人間関係に不慣れな私には、いくら考えても考えても自分の居場所が見つからなかった。中間研修の時、ほかの留学生たちは日本語を流調に話せた。そのわりに自分の五ヶ月目の日本語能力が期待したものに見合っていないことに落胆した。

そのターニングポイントは同じ学校の留学生との出会いだった。日本語が全く話せなかった人もいた。自分より困っている事が多いはずの彼らは、周りの人に話しかけようとしていた。語学を身につけるためには話しかけられるのを待つのではなく、自分から話しかけるしかない。待っていても誰も助けてくれないからだ。間違うことを恐れずに、人に直してもらうのだ。彼らは迷っている自分を助けてくれた。ネガティブな自分に別れを告げ、自分から話すようになった。日々少しずつであるが、成長を実感していた。

留学生活は今までの甘ったれた自分を見直すためにもあった。昔当たり前のように親にしてもらったことがどれだけ贅沢なことであったかを身に沁みて感じた。今まで毎日学校まで送ってもらっていた自分は今電車で学校に通っている。最初は辛かった。しかし周りの中学生たちが同じ人波の中で電車に乗っている姿を見ると恥ずかしくてたまらなかった。彼らにとってそれこそ当たり前のことなのだ。遠足でバーベキューをしたときも、材料を買ったりするのも火をつけたりするのも全部生徒たち自分でやっていた。中国の子供たちは生まれてからずっと親に守られてきた。自立性が欠けている。日本の子供たちへの教育は将来のためにあるのだ。

日本の学校と言えば、授業が終わるのは早いから楽だと思ってしまうだろう。知らなかったのはほとんどの生徒がクラブに入っていること。放課後、土日さえ部活のある生徒もいる。文句を言うどころかむしろ楽しんでいた。学生時代を部活に捧げている、と言っても過言ではない。クラブのない外国人から見ると時間がもったいないかもしれない。中国ではなおさら、大切な時間を勉強に使いたい人が多いのではないだろうか。だが日本の生徒は特技を身につけることに使っている。それで一人ずつ特技を一つか二つ持っている。その中で何種類かの楽器ができる人も多い。知り合いにバントやっている人たちがいて、ライブも何回かやった。彼らが羨ましい。自分は高校生になっても人に見せびらかせるような特技を持っていないからだ。

故郷を離れ日本に来なかったら、今も外国人と話す勇気はなかったと思う。国際社会に足を踏み入れ、多くの外国人と関わりを持つことは人生の中でやりがいがあることだ。まだ若いうちに自分の目で世界の広さを知ることができて、本当にありがたい。

日本での生活は全てが順調だったとは言えないが、一度味わった挫折のような気持ちが自分に強さを与え、成長させてくれたのだ。この一年をただ自分のステータスとなった体験として終わらせるのではなく、これを通して学んだことや気付かされたことを今後の生活に生かすとともに、世界へ羽ばたく国際人になれるよう頑張っていきたいと思っている。

最後に今まで支えてくれたホストファミリーの藤本さん、助けてくれた人々に心より感謝の気持ちを伝えたい。本当にありがとうございました。これからも感謝の思いを忘れずに生きていきたい。

夏・青春・大切な君たち

清風南海中学校・高等学校／東北育才学校
寇　主銘
KOU Zhuming

時間を遡って、去年の夏。

「初めまして、私は中国から来た、留学生の寇主銘と申します。部活はバスケ部に入りたいです、これからの一年間は、みんなと一緒に美しい思い出を作りたいと思います、どうぞよろしくお願いします。」

それは最初の自己紹介でした、暑い夏の日、新制服を着て、一人異国での留学生活が始まった日でした。

堺、湊、諏訪ノ森、石津川、浜寺公園、羽衣、高石、北助松、毎日通学の電車が通る駅でした。日本の一日の高校生活が始まった。終礼が終わってから、放課後の部活の時間となります、運動部に入ったので練習がすごくしんどいです、しかし、みんなは諦めずに、我慢して、自分を乗り越えようとしていた、一緒に汗を流して、先輩が言ってくれた「しんどいけど楽しい」という言葉をよく理解できました。クラブ活動が終わってから、みんな大声で笑い、喋りながら、帰ります。その時によく目の前で踏切が閉まって電車が通り過ぎ、皆で文句を言いながら、次の電車をまたなければならない。そういった光景は、まさに私が数年前憧れていたアニメにしかない光景でした。今は、確実に一年間それを体験しました。

疲れ切った体を自転車に乗せ、ゆっくりのスピードで、周りの遠ざかる風景を見ながらホームステイ先に帰るときは、すごく気持ちよかった。ホームステイ先というよりも、ある意味では、「私の家」といってもいいと思います。慈しくお祖母さん、私を自分の息子みたいに世話してくれました。お父さんお母さん、色々教えってくれた同級生、可愛い妹二人、鈍臭くて仲がいい猫と犬で構成した家でした。近所の人たちと遊びに行ったり、庭で近所を誘ってBBQしたりしました。憧れた日本の高校生活だけではなく、本格的な日本人の生活も思い切り体験しました。このプロジェクトに参加できて、本当に良かったと思います。

「光陰は矢の如し」ということわざがあるように、時間って本当に早いものです。一般的に、多くの人々が幸せの時間こそもっと短く感じるということを知っていたが、以前の私なら信じていなかった。しかし、今はそれを認めるしかない。それにしても、一年間で作り出した思い出は決して少なくはない、初めての歓迎会、USJ、ボーリング、焼肉卓球パーティー、クラブの練習試合、公式戦、クラス会…全部覚えている、私の青春という物語に全部刻んでいます。あの夏から始まった、夢のような留学生活を。君たちと一緒に過ごせて、良かった。

本当にありがとうございます。いつも可愛い笑顔で話しかけてくれた名も知らない子や、色々と助けてくださった先生方。クラブで一緒に練習を頑張ってきた仲間たち、私を息子みたいに一年間世話してくれましたホストファミリーである小林家。言い切れないほどの感謝の気持ちは胸から溢れ出ました。

皆さん一年間ほんとにありがとうございました。

今は帰りたくないと言っても意味がないって分かっているのに、なんとなく言いたいです、17歳の人生の一番美しい時期に、君たちと出会って、良かった。もし、もう一回繰り返しできるならば、きっと私は、また日本に行く、そしてもう一回君たちと出会い、「初めまして、私は中国の留学生寇主銘と申します、これからの一年間よろしくお願いします。…」から始めるのにちがいないです。

また夏が来る、しかし、今回は別れの夏でした。もし別れが避けられないなら、未来に向かって、前に進めるしかない。この別れは、将来の再会のためである。私は信じています。この悲しみは再会の時の喜びとなることを。

また、夏に再会しましょう！17歳の青春の思い出の中、君たちがいって良かった。

では、また、夏に…。

終わりに咲く

奈良市立一条高等学校／石家荘外国語学校
李　笑寒
LI Xiaohan

今考えたら、この1年間は、本当に夢見たいです。

しかし、北京から飛行機に乗る時からのこと、全部はっきり覚えています。

日本の夜は、とっても静かで、虫の声しか聞こえませんでした。来日当初は、学校の授業の意味が全然わからなくて、焦燥感がありました。家に帰って、泣いてしまいました。その時、ホストファミリーのお母さんは優しくて、私に日本史を教えてくれました。

それから、クラスメートの家でも泊まって、いい友達ができました。だんだん楽しくなって、家に帰るときバスから見た春の花も、緑になった芝生も非常に美しく見えました。毎週クラスメートと遊びに行って、USJ、琵琶湖、海遊館、京都のお茶碗の美術館、天平祭、動物園など、暇な日は全部なくなりました。忙しいですが、毎日楽しかったです。学校でも色々ありました。体育大会、修学旅行、球技大会、遠足、たこ焼きパーテイ、合宿など。これ以外、ドイツ語も勉強して、ソフトボールもやりました。春休みには、甲子園に行って、野球を見ました。その気分に感動して、阪神ファンになりました。

この1年間で、できたものと言ったら、まずは何があっても、積極的に解決すること。たとえば、中国での友達が突然留学して、最後まで会えませんでした。私も泣いたり、怒ったりしましたが、二人でたくさんしゃべって、友達ということも理解できました。自分も、周りの人にたくさん面倒をかけたと思いますが、みんなが教えてくれて、自分も成長できて、嬉しかったです。本当にありがとうございました。この1年間の中で、切符をなくしたこともあるし、在留カードがレールにおちたこともあります。でも、知り合いもいないから、頑張って自分で他の日本人に聞いて、解決しました。日本人はみんなも優しく、私にたくさん助けてくれました。一人で外国にいる私は感動しました。それで、心も落ち着きました。花道と茶道をする時、非常に心が静かで、私も水のように優しくなれました。これからの人生も時々花を挿したり、お茶を飲んだりして、優雅に過ごしたいと思います。最後、知らない外国人と喋って、だんだん家族や友達になるのは、多分、自分が少しでも、友達より先に色々学んだなあと思います。この1年間、ミャンマーやオーストラリアの人とも友達ができて、今でも連絡しています。社会に入る過程は、大勢の人と交流して、知り合いになって、成長することです。

来た時は日本にいる時間を毎日計算していました。今、その最後、0になる日、私は中国に帰るので「一人」になります。少し孤独ですが、また、会えますねえ！みんな！

感慨無量

和歌山県立那賀高等学校／福州外国語学校
陳　溢暘
CHEN Yiyang

光陰矢の如し

まさに今この 11 ヶ月の旅が充実して幕が下りるところである。

今から 11 ヶ月前、羽田空港から関西空港までの飛行機で未知の学校生活に対しての憧れと期待に満ち溢れ、今回の旅を踏み出した。

最初のホストファミリーの家に行く途中ずっと心臓がドキドキしていた。ホストファミリーの坂さんは本当に優しい人だとすぐわかった。来日したばかり、坂さん家族が温かく励まし、支えてくれたからこそ、日本の生活に慣れることができた。坂さんは心連心の生徒を六年間ずっと受け入れ先として続けてきた。先輩たちから時々手紙が送られてきていた。それぞれの心連心の先輩たちと深い絆があるようだ。

学校に登校するとすぐに、文化祭と体育祭が行われた。文化祭では吹奏楽部が演奏した曲に感動したし、3 年生の先輩たちが上演した劇も印象深いものであった。迫力ある演技と照明や道具との絶妙な取り組みはチームワークの素敵な表現だと思う。体育祭の中、24 組のクラスが三つのグループに分けられて騎馬戦とか綱引きとかスポーツゲームを通じ、競争だけでなくみんなとの友情も深まった。

3 ヶ月後、私はバスケットボール部に入った。正式の試合に出場できなかったけど、今でもはっきり覚えているのはある会場へ応援に行った時、試合の最後の 1 分間に超遠い距離から 3 ポイントが入った。1 点の差に迫ったが、次のオフェンスがディフェンスのない状況でミスしたから、残念ながら 1 点差で負けた。人生は絶対に負かされる時があるけど、必死に頑張って悔いのないように努力したのだからどんな結果でも受け入れできるだろうと思う。体がもっと強くなっていくと同時に、バスケットボールを通じ、性格を鍛えるのも重要だと思う。

一月に沖縄へ修学旅行に行ってきた。沖縄の有名な美ら海水族館を見学したり沖縄戦のとき残っていった壕に入ったりした。真っ暗でじめじめした壕の中に戦争がもたらした不安な気持ちを身近に体験し、記念館の中に私たちと同じぐらいの年齢で戦争によって命が奪われた少年たちの写真を見た。また生き残った方たちからの話を聞くと沖縄戦について詳しく学習することができた。沖縄戦で命を失った少年たちはもともと教育を受けたり夢を追い求めたりする時期であったはずだが、戦争がもたらした苦痛を堪忍していた。沖縄戦に日米両国間の暗い歴史を思い出された。中国語には「前事不忘、後事之師」（前の事を忘れることなく、後の戒めとする）という言葉がある。今の世の中は平和なわけではなく、ただ、幸運なことに戦争がない国に生まれただけのことだ。戦争について真剣に考える貴重な経験ができた。

来日してから 7 ヶ月経ってから、新しいホストファミリーの阪井さんの家へ転居した。幸いなことにかなり貴重な体験をさせてくれた。阪井さんのおかげで都市住まいの私が初めて「農業」を体験できる機会を得た。玉ねぎを引いたり、そら豆を採ったりして珍しい経験ができた。つらかったけど農作業を通じ、農民が美味しい食材を作るために苦心しているとわかった。

この一年間の生活の中に、学校やホストファミリーや近所の人たちとの触れ合いを通じ、最もありがたかったことはお互いに理解していくということだと思う。テレビや新聞などのメディアの報道は誘導的に行われている傾向があるので、実際に自分の目で一度見て自分の手で一度触れてみると現地の風俗習慣に客観的な感想が得るほうがよい。ある時、近所の人が「中国人は猫もよく食べるの？」と聞いてきた。面白い質問だと思った。こんな経験を通じて両国民の間にまだ様々な誤解があると証明したのではないか。誤解を取り除くために、心連心のような両国の交流を促進するプログラムがなければならないと思う。

一年間の留学生活で那賀高校のおよそ千人の生徒たちが私に様々な活き活きしている姿を見せてくれた。一方、思春期の高校生たちは外部からの影響を与えられやすい不安定な時期だが、一方で異文化を受け入れやすくて単純な時期でもある。だから、自分の文化と異なることに興味を持っても話しかけてくれて嬉しかった。学校に来たばかりの時もクラスメートたちだけでなく、他の人たちも熱心に自分を助けてくれたのには本当に感心した。

会うのは別れの始まりだ。この約一年間の時間が終わってしまった。「さようなら」は本当に言い出しにくい。ホストファミリーの坂さんと阪井さんと出会ったことは私にとってとても幸運だった。学校の先生たちもできる限り多くのことを体験できるようにさせてくれた。国際交流基金の先生たちも私ら 31 人のお世話をしてくれた。最後に、この素晴らしい一年間を与えてくれた、ホストファミリーたち、学校の先生たち、クラスメートたち、国際交流基金の先生たち、一年中暖かく支え、助けてくれたことに対し、心を込めて感謝します。

置かれた場所で咲きなさい※

広島市立舟入高等学校／太原市外国語学校
陳　傲
CHEN Ao

※『置かれた場所で咲きなさい』渡辺和子著より一部引用

雨つぶがしとしとと軌道に跳ね出した。目を閉じると、こまごました記憶が、白黒写真に映っていた。

ごとごとごと…。がらんとしている路面電車がのろのろと右に曲がっていく線路に沿って進んだ。私は一所懸命に70年前の、広島の空に散った欠片のすべてを嗅ごうとした。けれども、鼻に潜り込んだのは、いつもの彼らの淡く軽やかな香りだった。

「今日も元気に頑張っとるね！」と、私は、微笑みながら挨拶をした。

もう10ヶ月になるのだ。自分の顔と同じぐらい大きな雨つぶを阻む彼らの、気持ち良く全力でまっすぐに伸びている様子を見ながら、私は思い出していた。

「広島に留学する？東京や大阪じゃないの？」、「普通科に入る？国際コースじゃないの？」、「マンション？近くに昼夜うるさい国道があるん？」…いっぱいの予想外が、突如現れて、呆然。

そして留学。少し慣れて来た秋。それから…。冬を思い出そうとする瞬間、もうすでに窒息しそうだった。寒さの中、短パンと半袖のシャツで、毎日何キロも走った持久走。その後、凍ったような床で、バンバンと足を踏み込む剣道の稽古。足の皮が擦り切れて生え変わり、また擦り切れて生え変わるという終わりのない循環に落ち込んでいた。

ある大雪の日。それは雪片ではなく黒豆のように大きな、いたずらな「白豆」だった。私の頭のてっぺんから飛んで、目、唇、コート、スカート、真っ赤な足に次々と重く重く跳ねていった。「もうやめろ！」と、怒りと半年間溜めたストレスが抑えきれなくて叫んだ私は、思わずぎゅっとブレーキをかけた。握りしめた手さえ力がなく、一人ぼっちになっちゃった感じ、全身無力感でうな垂れていた。涙のせいか雪のせいか分からないけれどぼんやりした視界。重くなった目で、視線が、地面に落ちた。すると、その一面の白い世界に、何本かまっすぐ頭を出している緑の短い茎が目に入った。何度も会ったことのある彼らだ。去年の夏は、きれいな花を咲かせていた。「元気出して！ごうちゃん！ほら、うちらまた咲くよ！」

…置かれた場所で咲きなさい。一時期の苦しみのために、自分の素晴らしい芳香を放つのをやめないでください…渡辺和子さんの言葉。

その通りだ！広島であるからこそ、この国際的な都市で世界から集まった人々と平和学習ができて、自分の好きな歴史知識も、一層深めることができた。普通科に入ったからこそ、普通の日本の高校生活を体験し、日本語も上達した。マンションであるからこそ、国道沿いであるからこそ、この大好きな家族に出会って、限りある空間で心を静めて、ホストファミリーのお兄さんのように集中力を身につけることができた。

そのすべてを納得した時、私は解放された。雪の中で、自転車と私と、いたずらの「白豆」、共に舞いながら、学校に向けてゆっくり進んでいた。

四月の春は私にとって新しいスタートだった。彼らと一緒に自分の花びらを広げながら、毎日を楽しんでいた。どこに行っても、自分の持つ芳香がいつものように漂うために、頑張って咲いていた。毎回の練習で流すぽたぽたの汗と匂いに恐れることなく剣道をやった。日本語弁論大会の準備も頑張った。夜の時間は短いけれどホストファミリーとの団欒を楽しんだ。その後の深夜の勉強も、心の底から笑顔で奮闘していた！

萌え出でし花の香りが薄くとも
吾が胸裡に夢育ちゆく

立ち止まった何分間で、雲が散らばっていった青空から、雨つぶはだんだん糸のように細く小さくなって降りてきた。その一本一本が初夏のうららかな陽光と共に、彼らの笑顔に燦々と降り注いだ。

ごとごとごと…と、電車は、また前に走っていった。

私の行く道は、きっと香りに溢れていることだろう！これからも、どこでも笑顔で咲いていこう！

思い出

福岡市立福岡西陵高等学校／済南外国語学校
韓　星
HAN Xing

「シンちゃんー、もう帰ると？まだあと半年おる気分するのに…寂しくなるわ…」って、友達が言いました。「シン、留学は延長できんと？月末に試合あるぞ！出て欲しいな！」って、部活の先生が言いました。「ずっと西陵におってみんなと一緒に卒業したら！」って、担任の先生が言いました。

私は苦笑いしながら「一年間はやかったね！もう帰る時になってしまった」って言うこと以外何もできませんでした。

一年間はそんなに早いと思わなかったです。初登校した時の様子はまだ時々頭の中に浮き出るのに、私の留学生活はもう終わってしまいました。最初の時どんなにきついと思っても、行けそうじゃなくて逃げたくても、今は楽しい思い出しか残っていません。

悲しい話ときつい話はせず、面白い思い出をシェアしたいです！

日本の花火大会はもちろん世界中でも有名です。日本に来る前にも行けたらいいなぁと思ったけど、9月はもう全然開催されないはずです。でも福岡の香椎浜の夏花火の日は雨が降っちゃって延期しました。私は雨のおかげで幸運に花火大会を見れるようになりました。その日、私は楽しみ過ぎて早く家を出たけど、着いたら人は想像以上多くて座るところはなかったです。1人で行ったのでどこでもいいやん、と思って、海岸とちょっと離れているデカイ石に座っていました。色々な屋台を見回って気に入る食べ物を食べて、空はどんどん暗くなりました。石に戻って花火の打ち上げを待った方がいいなと思って戻りました。焼き鳥を食べながらイヤホーンで音楽を聴き始めました。焼き鳥を完食したあとバッグの中に置いているたこ焼きを取り行く時、スマホが石と石の間の隙間を通って海に落ちてしまいました。その時の私はたこ焼きうまいなと感嘆して、調子乗り過ぎて音楽がなくなることも全然気づいてなかったです。あと五分で花火を打ち上げますっていう放送を聞いて、そろそろ食べ物を片付けてスマホを用意して写真撮ろうと思う時、やっとあの完全に海水に浸してかわいそうなスマホに気づきました。結局写真一枚でも撮れなかったです。最悪なのは、夜になって海水どんどん上がって石が水浸しになりました。花火終わった時足腕以下全部濡れてしまいました。海岸戻ろうと思う時、水上がり過ぎて 水泳で戻るしかないです。海水絶対無理なスマホ先に壊れちゃって、他の荷物が全然大丈夫なので安心して泳いて海岸まで戻りました。全身濡れてるし寒いと感じる時、めっちゃ優しいお姉さんからタオルをもらいました。これは日本に来て初めて知らない人に感動したことです。やばかったけど、世界唯一な花火大会に関する素晴らしい思い出だと思わないですか。

ここまで読んで、留学感想の作文を書きなさいって言われたけど、こいつ言いたいことはなにって思う人絶対いるでしょう！実は、私が言いたいのは、留学でもスマホが壊れることでも両面性があるということです。みんなはこの一年間楽しかったぞって言うけど、正直に言えばきつくて逃げたい時絶対ありますよね！（ないのはありえんだよ、嘘つくな）やばいことでもいい思い出になるかもしれません。逆に表面的に嬉しそうにすることは頑張る前けっこうきつかったかもしれません。私もみんなも事物の両面性を見てちゃんとバランスを取って最後まで行けました！拍手！16歳の男女31人、何か起こるのかどうすればいいのか全然分からなくても勇気出した異国の土地に踏み込んで来ること、素晴らしいです！若いころに色々挑戦して間違えても大丈夫の気持ちを持って最後までやるのは青春です！中二病っぽくなったけど、日本に来た一年間、自分がよく成長したと感じました。諦めず自信出して友達作るし、学校行事いっぱい参加するし、部活頑張るし、充実な生活を過ごす自分が大好きです！達成感やばすぎて最高ですよね。

日本、また来ます！待っていてください！

忘れがたい留学生活

龍谷高等学校／石家庄外国語学校
楊　鉄寧
YANG Tiening

冬を経て、春はまた訪れました。あっという間に日本での楽しかった生活を終えました。小学校から漫画を読み始めて、だんだん日本語が好きになって、それをきっかけに中学校の時、英語以外の外国語を勉強できる機会があると聞いたら、ためらわずに日本語を選びました。今振り返ると、もしあの時、私が日本語を選ばなかったら、こんなに素晴らしい留学生活を体験できないだろう。

初めて日本に来ること、初めて日本高校授業を受けること、初めて日本人の友達ができること……私の留学生活はいろいろな初めてのことからできています。学校のことから話したいと思います。龍谷高校は佐賀市の私立高校で、仏教を仰ぎ、「合掌　感謝　自律　明朗」という校訓を説いて、とても優れて教育がいきとどいている学校です。毎週講堂で仏教の歌を歌う、先生から懇切な教えを諭してもらうことをいつも楽しんでいます。学校で先生たちはいつも厳格なスーツを着ています。そこから日本人は仕事に対して、真剣な態度を持つことが分かりました。学校の授業の独自な特色は先生から知識を得ることだけでなく、生徒たちはグループになって、目下のホット問題や社会焦点について、解決方案や考え方を話し合うこともできます。そして、佐賀大学の大学生も先輩の角度から、私たちにありがたい経験を教えてくれます。

次は私の部活動生活を紹介したいです。日本へ来る前に、一番体験したかったのは部活でした。しかし、本格に日本の高校にいったら、いろいろな部活に迷ってしまいました、日本伝統の作法を学ぶ茶道、また、かっこよくて力を磨く剣道、たくさんの部活を見学してみると、どれも簡単なことではないときづきました。最後、友達を通じて、私は吹奏楽部に入ることにしました。音がきれいなフルートを選びました。吹奏楽部の一員として、コンクールで初出場の私はすごく緊張していました、緊張しすぎるかもしれない、演奏する前に楽譜を見つけられなかった。「どうしよう、どうしよう」と心の中で叫ぶ声が私を不安にさせてしまいました。先輩は困った私を見て、「大丈夫ですよ、先生の指揮をちゃんと見たら大丈夫！」と私に励ましてくれました。コンクールは順調に終えることができました。わたしにとって、絶対に忘れられない事です。

舞台の上で、部活のみんなが上手に演奏できることは舞台に上がる前に、何回も曲を繰り返さなければできないことです。中国語で「台上十分鐘 台下十年功」ということわざがあります。それは何をしても、必ず努力をはらわないといけないという意味です。一年間の部活を通して、勉強も部活もまじめにする日本の高校生の姿はわたしの心に残っています。

みんなで作り上げた音楽は私の留学生活を彩りました。学校での雰囲気は家の温かさを感じられます。みんなと大切な思い出ができて、楽しかったです。この一年間、たくさんの人から助けをいただいて、本当にどうもありがとうございます！

かけがえのない思い出

活水高等学校／北京月壇中学
褚　睿雯
CHU Ruiwen

あっという間に1年間の日本留学生活は終わりました。11ヶ月前に日本に来た日のことを思い返すとまるで昨日のようです。留学が決まった時は日本での生活に期待と憧れを持っていました．お互いにお互いを理解し、以心伝心し合える関係になれると信じていました。日本に来る前に私には二つ望みがあり、一つは自分の日本語能力を高め、もう一つはここで多くの友達を作ることです。

しかし、出発をする時には緊張と不安で胸が一杯で、自分がやっていけるだろうかと心配になりました。今回の交流活動で私は長崎の活水高校に通うことになりました。長崎は景色が美しくて歴史も古い都市です。活水高校は特徴がある女子高校で、学校は知識教育だけではなく、キリスト教を教える学校です。活水高校でいろいろなことを体験し、今までやったことがないことを勉強し、いい経験になりました。

私の学校は北京で日本語に力を入れている学校です。毎年日本との交流活動が非常に多くあります。だから私は日本に対して、特別な感情を持っています。幸い昨年の留学プロジェクトに参加し、自分の目で見て、自分の心身で本当の日本生活を体験することができました。

初めてクラスに入る時、先生も生徒もとても温かく私を迎えてくれました。自己紹介した後に、皆さんは笑顔で親切に拍手してくれました。皆さんの笑顔のお陰で私は瞬時にリラックスしました。私の心はとても温かくなり、深い印象が残りました。最初の頃、すべてのものが新鮮でした。皆さんが優しく私に教えてくれて、各所を案内してくれ、私と話すときにわざとスピードを緩めにして、方言を使わないように気遣ってくれました。皆さんの親切で私の孤独感はなくなりました。そして、クラスの友達は中国の文化に対して非常に好奇心があり、両国の異なるところを発見し、よく私と話しました。

皆さんと一緒にいる時、中国と違う文化や生活習慣をもっと深く理解できて、古い友人と付き合うような深い友情を育むことができました。いろいろな話をできて、その中から勉強もなりました。私達は一緒に球技大会に参加したり、たくさん写真を撮ったり、夜景を見に行ったりしました。私達は家族のようになりました。貴重な経験と感動で胸がいっぱいです。私が帰国後連絡を続けることを約束しました。そして、校長先生をはじめ、数学の法澤先生、国語の池田先生、内川先生など多くの先生達は私を温かく助けてくれました。皆さんの優しさをきっと忘れられません。2A特の皆さんの笑顔は私の心に永遠に刻み続けられるでしょう。

私の一年間

長崎県立壱岐高等学校／西安外国語大学附属西安外国語学校
何　祥龍
HE Xianglong

一年の留学生活が終わり別れる時になりました。しかし、すべての出来事は昨日起きたことのようです。この一年間で僕は金閣寺や清水寺などいろいろな名所に行きました。福岡大学で勉強する機会もありました。1年1組から2年1組に入りました。全部は私の大切な思い出です。

去年の9月11日、私は船に乗って壱岐に行きました。わたしの留学生活も始まりました。その前まで、いろいろな不安がありました。壱岐高校の先生方や生徒たちは僕に壁を作らなくて優しく接してくれました。不安はすぐになくなりました。だんだん、みんなの中に入って、みんなと一緒に笑い、一緒に授業を受け、一緒に部活動をすることは、とても楽しかったです。日本のお母さんがつくってくれたお弁当はおいしいです。これだけではなく、先生に叱られたこともあるし、友達と関係が悪くなることもありましたが、この一年間、本当に楽しくて感動しながら過ごしてきました。いろいろな勉強もしました。壱岐高校の生徒たちは私に頑張ることを教えてくれました。週末でも、みんなは部活動と勉強を頑張っています。みんなの姿を見て、自分も成長しました。以前より、もっと頑張るようになりました。壱岐は小さい島でとても綺麗です。しかし、壱岐の人口がずっと減っています。1年の総学で、私は壱岐についていろいろな勉強をしました。みんなと一緒に壱岐の発展について相談してたくさんの資料を捜して、最後に発表しました。いろいろなアイディアを考えることができました。

ソフトテニス部に入ったことは本当によかったと思っています。私が初めてテニスをするので、始めた時は何もできませんでした。しかし、いつもみんなからいろいろなこと教えてもらいました。だんだん上手になって、みんなや先生から「いいボール」と言われた時はとても楽しかったです。テニスは外でやるので熱い時はとても暑く、寒い時はとても寒いです。走ることは苦手ですが、毎日約4kmを走ることも一生懸命頑張り続けました。試合がある時、みんなと一緒に声を出して応援することはすごく嬉しかったです。

この一年間、大切な思い出が多いです。一つ一つ言うことができません。僕と一緒に成長する友達、私に美味しい弁当を作ってくれるお母さん、病気の時、病院に連れて行ってくれたお父さん、私に授業する先生方、いろいろお世話になってありがとうございました。わたしにとって長山旅館はもう私の家になりました。ここで出会った家族と友達は一生の家族と友達だと思いました。いつか、私はもう一度この家に帰って来ます。もう一度「ただいま」を言います。この一年間、私は日中交流の橋渡しです。今後、日中交流のため、少しでも力になりたいです。

日本での一年間

岩田中学校・高等学校／済南外国語学校
劉　禎
LIU Zhen

私が飛行機に乗るのは、日本へ来た時が初めてだった。窓側のシートではなかったので、残念ながら外の景色がちっとも見られなかった。二回目の飛行機は冬休みの時だった。クラスメイトの一人が親切に泊めてくれて、その家へ行くのも飛行機だった。また窓側のシートではなかったので、残念ながら外の景色もまたちっとも見られなかった。ようやく見られたのは、中間研修に行く途中だった。随分きれいだった。青い空も、平原のように広がる雲も。強い日光に照らされて、何と無く気分がよくなった。その眩い世界は、私の頭上何千メートルのところにある、と意識すれば、ちょっとほっとする。日本へ来てから、いろいろいい思い出を得た。

学校に来た時、ちょうど学園祭が始まる直前だった。確か土曜日に到着して、日曜日いろいろ日常品を買って、月曜日初めて登校して、一日中授業はなく、みんなお化け屋敷の準備をして、その次の日、すなわち火曜日に突然に学園祭を迎えることになった。不意打ちを食らったような気がしつつも楽しんでいた。まだ学校の敷地を歩いたことなく、寮と教室しか知らない私が、手に小説を取って、お化け屋敷の舞台裏に潜んでいて、ちょっと騒がしいバックグラウンドミュージックに囲まれて、目を大きく開いてもほぼ何もはっきり見えない闇の中で、客たちの反応を楽しみながらのんびりしていた。時々外に出て、人の行列の傍で小説をちょっと読んで、座る場所もないのでしばらく経ったらまた中に戻った。手伝えることももうなくて、小説も気楽に読めなくて、その時の私は、つまらなくてかなわないものの、その雰囲気に酔っていたのだろう。まるでお祭りのようだった。けれども、頭に残ったイメージは正に奇妙だ。世界は教室と教室外の廊下だけで、人もみんな誰が誰か分からない。時の経つにつれて、その現実味がだんだん薄くなっていく。長い夢を見て覚えて、それを思い出す時と同じような感じがした。

読書にちょっと耽っていた。と言っても、ほぼ推理小説、すなわちミステリーばかりだ。謎と謎解き、プロットとトリック、精密さと巧妙さ、簡単に人がそれに引き付けられるだろう。謎解きの楽しみ以外、社会性が強くて、リアリティを重んじる社会派ミステリーも、ハードボイルドも、本格ミステリーだけでよく満足できないかもしれない読者の求めに応えるだろう。ミステリーが本当に魅力的だと、私はそう思う。

クラスメイトも、先生も、みんな本当に優しくて親切だ。外国人の留学生の私に対して非常に熱心だった。日本へ来たばかりの時、私はまだ緊張してなかなか何もうまくできなかったけど、寮のほかの留学生たちが私にいろいろ教えてくれて、先生も私を近くの百円ショップとかに連れて行ってくれたりして、日本の生活に慣れるまでよく手伝ってくれた。数回のホームステイ先のホストファミリーたちもみんな親切だった。私はホームステイの時いろいろな所へ行って、楽しんで、いい経験を得た。水族館とか、遊園地とか、世界遺産とか、日本についての理解も深まって、いい勉強になった。最も感動したのは、ホストファミリーたちみんなが私を本当の家族として受け入れてくれたということだ。彼らと順調に話せてよかった。私にはまだいろいろ勉強しなければならないことがあるけれども、別れる時がもう来た。本当に、ありがとうございました！

たかが一年間、されど一年間

日章学園高等学校／天津外国語大学附属外国語学校
張　霆宇
ZHANG Tingyu

光陰矢の如し、日本での一年間の留学ももうすぐ終わる。中国人として、この身で日本で暮らして、日本人と付き合って、色々な文化の違いも感じてきた。日本に来たばかりの時を思い出せば、自分が本当に成長した気がする。

これまであまり家族から離れる経験のない私は日本に来たばかりの時、わからないことだらけだった。でも周りのみんなは私が困らないようにいつも親切にいろいろとおしえてくれた。みんなおかげで私はすぐに日本での生活に慣れた。

心連心の生徒として日本に留学にきて、文化交流はやはり不可欠である。正直言うと私は最初その意味が分からなかった。文化というのは何か、それをどうやって交流するのかと、私はずっと悩んでいた。しかし時が流れるとともに私はわかった、自分がここで暮らしていること自体が文化交流であることを。中国人として、ある場合でどうすればいいかは自分から見れば当たり前のことかもしれないが、それを日本人が見ればそれは非常におかしいかもしれない。例えば私が授業中に水を飲んでしまった。そして先生に授業中に水を飲んではいけないよと言われた。私が当たり前だと思ったことは日本では禁止になっている。一年間の中でこういうことがたくさんあった。こんなことで互いに文化の違いをわかり、文化交流も自分が知らないうちに進んでいる。

生徒として、一番感じられるのはやはり学校生活の違いである。日本の学校は中国と違って、部活が大切だということが常識である。日本の生徒は大体、毎日授業が終わった後、必ず部活に行く。基本的に趣味としてやっているが、学校によって部活に未来を託す生徒もいる。日常生活も豊かになれるし、友達もたくさんできるから、非常にいいことだと思う。そこで私は弓道部に入った。日本の武道の一つで、心も浄化できると言われている。一年間かけて私はちょっとうまくなった。弓道というのは非常に難しいもので、他人からの意見と自分の理解、両方も必要である。練習するとともに私も成長してきたと思う。

一年間は長くも短くもない。むしろ長い人生の中において一年は非常に短いかもしれない。でもこの短い時間で私は日本人と接触し、日本での生活を体験し、その文化を知った。そして中国の文化を周りの人に広めた。自分的にも今まで最高の思い出を手に入れた。ただの一年間だったが、とても有意義であった。

足跡

鹿児島県育英館高等学校／長沙外国語学校
梁　愷東
LIANG Kaidong

日本に来てそろそろ一年が経とうとしています。友達と離れるという寂しさもかなり感じられますが、懐かしい家に帰れるという嬉しさはもちろん、これからの生活への期待もあります。

育英館に来た初日。文化祭の後片付けの時でした。時期がすれ違って残念だと感じながらも、みんなが学校の庭で迎えに来たり、学校の紹介をしたり、クラスの案内をしたりしてくれて嬉しかったです。こんなわけで、親しくて、優しいというのが学校の皆さんへの第一印象でした。その後、寮でお風呂に入ろうとする時、ボディソープはまだ買っていなかったことに気づいてかなり困りました。しかし、ある寮生から貸していただいて、助かりました。後にあの人は自分の先輩だったことを知り、信じられないくらい驚きながら、そのような優しい先輩がいれば、日本での上下関係はそんなに厳しくはないのではと感じました。その後は、ひっそりと静まり返った深夜になりましたが、ワクワクする心はまだ静まっていませんでした。もう日本に来たのを信じられずに、リアリティがいまいち感じられませんでした。「これからはどう過ごしたらいいのでしょうか」と悩み始めましたが、その後すぐ「くよくよしたって始まりません、なんとかなるでしょう」という理由にならない理由で自分を慰めました。

育英館に来て、様々なイベントにも参加させていただきました。過酷なロードレスや、鎧と兜を着て街を回る妙円寺詣り、緊張しすぎてうまくいかなかったMBCラジオ放送、みんなワイワイ盛り上がるBBQなどがありました。長期連休の時には、自分もホームステイをしました。やや短い期間にもかかわらず、ホストファミリーの皆さんは僕をいっぱい楽しませてくださり、計画まで立てていただいて、感謝の言葉しか思いつきません。そのため、素晴らしい思い出ができたのは言うまでもなく、恋しい家への懐かしさもいくらか和らぎ、それほど寂しくなくなりました。

中国へ帰国をした後、私は高校三年生になり、辛い日々が待っています。その時、今日までの一年を思い出し、内気な私とよく話し合ってくれ、手伝ってくれた友達を思い出したら、世間は美しいことにもう一度気づき、未来は明るいと信じて頑張って行けると思います。

絆は簡単に切れるものではありません。同じ国ではなくても、またいつかどこかでまた会えると信じています。

この一年は一生の宝物となるでしょう。

時の中で色褪せないままでしょう。

鹿児島に留学して思ったこと

鹿児島県立武岡台高等学校／蘇州外国語学校
周　躍
ZHOU Yue

数年ほど前までは、私は日本に来られるとは思ってなかった。

「制服を着って、カバンを持って、JRで通学する。」

私は鹿児島に来る夢とJKになるという夢を叶えることができて、まるで夢みたいです。

文化祭　稽古のために　部活行く

初めてパンをくわえてダッシュにJRを追いかける、初めて日本式な部活に入る、初めてさくらが咲き乱れる中で通学する…学校生活はまるで漫画の世界になって、私はそのヒロインになりました。錦武戦、ロードレース、野球応援…すべては、私がはっきりしている、まるでさっきあったことみたい。

九月、日本に来た当時は、ドキドキしました。『クラスメイトと何を話そうかな?』『自分が喋った日本語は相手に伝わるかな?』私はずいぶん悩みました。その時、『せっかく日本に来たから、華道部に入る?』私は初めて入部の招待を友達から誘われた。私は友達のはるちゃんに連れられて、生け花を一回体験しました。花を簡単で剣山に刺すのではなく「、自分や花の気持ちを持って、花の生き姿を表す」のが生け花だと思います。華道の顧問の中島先生からは、色々な生け花の知識を教えてくれました。

自習をサボって、引退の前にちゃんと生け花の稽古をして、一番完璧な作品を作って、みんなの記憶に残したい。何度も花を引き抜き、刺し回ししたが、私は疲れることはなかった。ただ、武岡台の生徒に『ああ、周と呼ぶ留学生が居た。』という記憶を残したいと思っています。

雁鳴くな　南に飛べば　我も帰る

鹿児島に来た去年の9月は、まだ暑かった。お父さんと一緒に展望台に登って、桜島を眺めた。天気は良かったから、自分も気分が盛り上がって、日本の歌を歌った。これが私の鹿児島とホストファミリーとの出会いです。

周りの人から見れば、17歳の女の子が日本に来て、母国と全然違う環境のなかで生活するのは大変だと思われたらしい。私はまったくそう思いませんでしたが…。

学校や部活が終われば、私はすぐに一発の弾丸みたいに、さっさとバスに乗ってお家に帰ついた。学校がつまらないのではなくで、ただ、私が愛しているホストファミリーのみんなにただ早く会いたかったから。日本にいる一番辛い時は、ホストファミリーからの支えは忘れられない。日本にいて一番嬉しかったのも、ホストファミリーからの励ましの言葉だった。

精神的な支えだけではなく、みんなから生活全部を支えてもらいました。お母さんとお姉ちゃんからは様々な料理の作り方を教えわりました。お母さんのグラタン、ロールキャベツ、コロッケ、おぜんざい等…何回でもお代わりしたかった!この一年間、海を隔てた中国の家族も私の成長を喜んでいるでしょう。この一年間、生活能力ゼロだったの私は、料理もできるようになり、精神的にも成長し、日本語もお父さんの教えのもとにどんどん伸びで来たと思います。

松木場家にホームステイして本当によかったです。みんな、大好き!

私は鹿児島の人情味は多分日本一だと思います。通学路で「いってらっしゃい」を言ってくれるおばちゃん、バス停留所でお菓子くれるおばちゃん、JRの車内で話をしてくれたおばちゃん…人情の厚さ、忘れない、忘れない…。

まだ、みんなと花火見に行きたい。まだ、みんなとあちこち行きたい。まだ、お母さんの手作り料理食べたい、まだ…まだ帰りたくない。

夏目漱石の名句「今日の月は綺麗ですね」であり。その本当の意味は好きな気持ちを伝えたいことです。

私も「まだ、みんなと一緒に桜島の姿を見に行きたいです。」と思う。

日本に来られたのは本当に良かった。この不思議な縁を大事にしたい。

絆

神村学園高等部／吉林省和龍高級中学
姜　慧玲
JIANG Huiling

「吹上浜の 白砂に　海原青く 照りも映ゆ　ここ麗しのわれらが学園…」

2016 年 9 月 12 日朝 8 時 45 分、世界が一瞬静まり返ったかのように、耳の横にはこの美しき音律の校歌しか聞こえなかった。9 月の湿気のせい風も鹿児島の蒸し暑い夏に涼しく感じました。

私、今、夢の中なのかしら…?

「それでは、自己紹介してください」と学園長の声がアリーナの隅々まで響きました。

「みなさん、初めまして。姜慧玲です。よろしくお願いします。」

ごく普通な自己紹介であるが、私にとっては新しい生活の始まりであり、運命から与えられた「チャンス」と言う試練の始まりでした。

小学 6 年の頃から日本のアニメに深く憧れ、日本語の魅力に惹かれた私は日本にずっと憧れの気持ちを持っていました。そして去年の 9 月！日中交流センターの心連心事業で私は日本で一年と言う長くも短くもない留学生活をスタートしました。最初は何もかも楽しくてたまらなかったです。クラスの皆はいつも声掛けてくれたし、先生方も留学生の私に他の生徒よりも目を配ってくださいました。英語の勉強も全然分からなくてもその爽やかで楽しい雰囲気が大好きでした。寮の生活もそこそこ厳しいところがありましたが、日本で暮らす為なら、その程度のことは大したことじゃないと思いました。

でも、日本の生活に慣れた私にはだんだん嫌なところが見え始めました。クラスの皆が私に興味を持ってくれたのは最初だけ、一週間ぐらい経ったら全て元通りに戻りました。皆それぞれ自分の元の友達と遊び、おしゃべりをするだけで、私のことは誰も気にしてくれませんでした。寮のご飯もあまり美味しく感じることがなくなってきました。そう、だんだん慣れてきたから。

同じ部屋の先輩もできるだけ助けてくれたし、先生も心配してくれましたが、だんだん寂しくなったし、日本人と会話をしても最初のような胸の高鳴りもどこかに消えてしまいました。「普通だな」と思ってしまう自分も嫌になってしまいました。

この落ち込んだ状況から私を救ってくれたのは私を神村学園まで 2 時間掛けて車で迎えにきてくれた私のホストファミリー - 沼田一家でした。

私は新しい暮らし、環境がすぐに好きになりました。最初は不安でいっぱいでしたが、皆さん、私の話題にすぐ乗ってくれました。話し方がとても面白いママといつも冗談を言ってくれるパパ、そして大人しくて少しシャイですが自分のやり方で私のことを思ってくれるみきちゃんがいてくれたので、私は初めてのホームステイ先でとてもうまくいきました。

ホストファミリー皆と相談して部活にも通いました。茶道部とバドミントン部でした。茶道部の先輩の皆さんはとても優しくて穏やかなお姉ちゃんたちばかりでした。毎週金曜日の自由研究の茶道部は私の楽しみになりました。それに比べてバドミントン部ではとても鍛えられました。「ダイエットになりそうだな」となんとなく入った私とはちがって、真面目で一生懸命で優勝だけを目指している部員たちと私の力の差は明確で、全然ついていけなかったです。迷惑をかけた顧問の先生方や仲良くしてくれた先輩と友達には悪いと思っていましたが、また陰ながら皆さんを応援したいなと思っています。

クラスのみんなからは、もう留学生ではなく普通のクラスメイトとして扱われています。話題にも普通に入れるし少しひどい冗談も言い合えるようになりました。でも、ときどき留学生だけの特典があります。クラス写真やクラス T シャツのお金をクラスみんなが割り勘で出してくれたりとか、リボンをつけるのを忘れた時も「けいちゃんは留学生だからいいが（方言）、ウチが先生に言っとく。」と慰めの言葉をくれます。「けいちゃんと一緒に卒業したいなあ。」と言ってくれる皆がいてくれて本当に嬉しいです。厳しいことばかり言いますが実はとても優しい山下先生、松本先生と内田先生、私を一員として受け入れてくれたクラスのみんな、親友の周ちゃん、ミョンへと文藤、この一年間一緒に笑ったりも泣いたりすることができ、とても幸せでした。

ホストファミリーの皆は私のことを本当に実の娘のように思ってくれました。長崎や福岡への旅行、いちご狩り、初午祭、誕生日パーティのためにグリーンランドにまで連れていってくれました。映画も一緒に見ましたし、タケノコ掘り、神社参拝、流しそうめんもしました。私のことをいつも心配してくれました。可愛いお弁当も毎日作ってくれました。恥ずかしいけれども、目覚めが悪い時は私を起こしてくださり、風邪でぐったりしていた時は代わりに休みの連絡もしてくださいました。家に帰ってきたら「ただいまっちょう」を言ってくれるのを忘れないパパ、ジップ（ワンチャン）に意地悪したら「弱いものを虐めちゃいけません」と変顔をするママ、お尻を触るのを許してくれたみきちゃん。

みんなは私に日本という異国で帰りたい場所を作ってくれました。

いろんな人と出会い、いろんな経験を得、いろんな困難を乗り越え続けました。もちろん後悔するようなことも悔しいこともありました。でも今言えることはただ一つ：日本に来て本当によかった！！ ときどきしちゃいますね。

私、今、夢の中なのかしら…。

暑くて暖かい沖縄の生活

沖縄県立向陽高等学校／成都外国語学校
謝　雨欣
XIE Yuxin

沖縄へ留学する前、私の沖縄に対しての印象はモルディブみたいな観光名所で、至る所にきれいなビーチ、赤い花、スリッパを履いてビーチパンツを着ている人々がいるような南国の風景でした。でも、全くそうではありませんでした。

沖縄は想像より大きかったです。私の学校は沖縄本島の一番南で、中部や北部への直通バスがなく、車で二、三時間かかります。近くのデパートまでにバスと歩きで一時間もかかります。また、海はそんなにきれいではないし、建物も普通だし、交通も不便だし、最初沖縄へ来た時はちょっとがっかりしました。

でも、徐々に沖縄の生活に慣れて、そんなに悪くないなと思いました。

沖縄の学生たちは毎日ギャーギャーしていて、以前受けた静かで厳しい日本人のイメージとは全然違い、私があまりしゃべれなくても、いつも私を連れて一緒に遊んでくれて、よかったと思いました。私は学校で合唱部と家庭科部とエイサー部に参加しました。合唱部の部活の時は毎回、友達はいつも面白い発声練習を教えてくれます。五月末に私達は合唱祭に参加しました。合唱祭は他の大会とは異なり、勝敗関係なく、小学生のような小さな子供もいれば、お年寄りのベテランの方々も参加しており、世代を超えた特徴のある大会です。そのような大会で私達は『証』という歌を歌いました。九人という少人数であまり迫力はなかったけど、お互いの声を聴き、思いを一つにしてハーモニーを奏でることができました。そして家庭科部では桜餅やミルク餅、ヨーグルトケーキなどを作りました。また、皆と一緒に餃子パーティを開いて、先生方も餃子の作り方を習いに来て、楽しかったです。エイサー部では、「エイサー」という太鼓を叩きながら踊る、沖縄の伝統的なダンスをし、とても情熱的でかっこよかったです。これらの部活は私に沢山の色んな所へ行く機会と色んな人々に会う機会を与えてくれて、勉強以外の充実した学校生活を送ることができました。

そして、私は冬休みと春休みに五回、短期間ですがホームステイしました。私は、ホームステイのおじさんおばさんたちや友達の家族や学校の先生に沖縄の有名な所に連れて行ってもらい、ほとんどの観光地を訪れることができました。一番印象が深いのは海軍戦役の記念館です。中の白黒写真を見て、防空壕を参観して、本当に衝撃を受けました。これは戦争に参加した人たちの勇気がすごかったことを伝えるではなく、戦争は戦争を発動する人にとっても、反撃する人にとっても、罪のない一般人にとっても、非常に苦しいことだと伝えていると思います。

沖縄は確かに私のもともとの想像と違いますが、今はこれがいいことだと思います。どれだけきれいな南国のビーチでも、愛想をつかす日もあります。でも沖縄は沢山の伝統的な文化や歴史を大切にしており、私は南国のきれいなビーチよりもこの沖縄の精神がもっと好きです。ここで暮らした生活はずっと忘れません。

第11期生を
受け入れて

どんなときでも近くにいて励まし、そして助けてくれたのは
受入校の先生、ホストファミリーの方々、仲の良いお友達でした。
第11期生にとって楽しい時間もつらい時期も一番近くで寄り添ってくださった
みなさまからあたたかいメッセージを寄せていただきました。

受入校

劉 鈺辰さんとの出会い

とわの森三愛高等学校 教諭　源津 弥生

2017年9月、本校では初めて中国からの長期留学生、劉鈺辰さんを受け入れました。本校は2010年度から普通科を5コースに分けて設定しており、そのうち総合教育コースでは2年次に中国語を履修します。1ヵ月後の10月に、台湾への研修旅行をひかえた2年生のクラスに劉さんを迎えました。

劉さんは登校初日の朝のホームルームで、緊張しながらもしっかりと日本語で自己紹介をし、学校生活をスタートさせました。授業を受け始めて2週間ほどで行なわれた定期試験では、他の生徒と全く同じ条件で試験を受けたのですが、得意科目だという数学ではクラスでも上位の得点をとっていました。理系科目については、教科担当の先生に難易度を高めて個別対応をしてもらいながら積極的に学習し、文系科目ではノートをきれいにまとめ、教科書にはびっしりとフリガナを書き込むなど地道な努力を続け、定期試験のたびに得点を上げていきました。「勉強頑張っているね！」と声をかけると、「ぜんぜん頑張ってないですー」と顔を赤くして謙遜する劉さん。様々な活動に積極的に参加し、とても穏やかで優しい劉さんは、あっという間にクラスに馴染んでいきました。クラスの一員であることがとても自然だったので、10月に一緒に研修旅行へ行けなかったことが、とても寂しかったようです。

本校での生活に慣れ始めた頃、劉さんは茶道部に入部しました。いろいろなクラブを見学した中で、一番興味深かったようです。本校を離れる前に、劉さんがたてたお茶をいただいたのですが、とても美味しかったです。茶道部の先生からも、「こちらが日本語で説明しても、それをしっかりと理解して、お作法も飲み込みが早くて素晴らしい」と褒められていました。

劉さんは中国でも親元を離れて寮生活をしていたようですが、本校でも長期休暇以外は寮生活でした。冬休みには、同じく寮生活をしている友人が帰省する際に自宅へ招かれて、初めての日本のお正月を体験。一般家庭でのホームステイも良い想い出となっていると思いますが、寮で日本の高校生と寝食を共にして生活したことは、より密度の濃い留学になったと思います。

本校を離れる日が迫って、クラスでお別れ会をしました。寂しさが涙になってあふれてしまいましたが、劉さんは北海道の大学へ進学したいという志望をもっているようです。お互いに成長した姿で会える日を楽しみに、負けずに前進しようと約束しました。劉さんに出会って、共に過ごした10ヶ月間は、本校生徒にとっても教職員にとってもかけがえのない宝物です。

受入校

褚 睿雯さんを受け入れて

活水高等学校 校長　大岩 厚

私たちの活水高等学校は、1879年にアメリカの宣教師エリザベス・ラッセル先生により創立された学校です。キリスト教を礎とした教育を行うとともに、特に英語教育には力を入れ、国際舞台で活躍できる人材の育成にも努めています。海外からの留学生が校内に在籍していることは日常的で、今回、国際交流基金日中交流センターからの留学生受け入れ依頼についても、本校生徒、留学生どちらにとっても有益であると判断しました。また、留学生は原則としてホームステイではなく本校の寄宿舎に入ってもらいますので、ここでも多くのことが学べると考えました。かつて、多数の中国・台湾の留学生を受け入れた時には、寄宿舎の生徒から、生活習慣の違いによって生じる食事や入浴のしかたについて不満が出て対応したこともありましたが、そのような経験も活かしながら、今回の受け入れを決定しました。

昨年、褚睿雯さんを出迎えに行った本校担当者は、初対面での日本語の丁寧さ、礼儀正しさと心配りに驚かされた、との報告をしてくれました。学校生活においては、一見おとなしそうに見える睿雯さんですが、クラスでは、「ぶんちゃん」との愛称で皆から慕われ、寄宿舎でも、共に生活する仲間の中から親友もできたようで、楽しい学校生活・寄宿舎生活ができたようです。また、高校の授業とは別に週に2日、活水女子大学に通い、大学生留学者対象の日本語教育講座を受講しました。授業を担当した先生は、睿雯さんは大変賢く、他の留学生ともよい関係を築けていた学生さんで、帰国により授業に参加できなくなることを大変残念がっていました。さらに、寄宿舎が閉鎖される期間、日本では各家庭での時間を大切にする年末から年始にかけて、日中交流センターのご紹介でホームステイさせていただいたご家庭からは、睿雯さんは礼儀正しく素直な子で、私達も楽しく過ごすことが出来ました、とのご報告をいただいています。

睿雯さんが、授業に対して熱心に取組み、日本語や日本文化の習得や理解に積極的であったのは、ひとつは日本の大学に進学したいという明確な目標があったからだと思います。本校の生徒達も、その姿勢から学ぶものがあったようです。また、睿雯さんと親しくなるにつれ、中国の文化や習慣などに興味を持つようになり、いろいろと質問しては中国のことを理解していったようです。

褚睿雯さんの帰国前に、寄宿舎で送別会を行いました。その席で、私は以下のような話をさせていただきました。

「国際化が進む社会において、国籍の違う生徒同士が、同じ人間として刺激し合えることはとてもよいことだと思います。たとえ、国と国との関係が難しくても、その国をつくる国民が、一人ひとりの人間として付き合っていけるよい関係をつくることができれば、関係性は改善されると思います。将来、睿雯さんが中国と日本との架け橋になることができるよう応援しています。帰国してからも、夢を叶えるために頑張ってください」。

国際交流基金日中交流センターの皆様が、中国と日本の生徒間で国際理解が進むよう努力されていることに敬意を表すとともに、この事業に協力させていただき感謝申し上げます。

寄宿舎での送別会にて

ホスト
ファミリー

心連心との繋がり

姜 慧玲さんホストファミリー　沼田 さゆみ

「お母さん、先生に『中国からの留学生を受け入れてもらえないかなー』って聞かれて『いいですよ！丁度お父さんが、1年間出張で家にいないから』って言ったよー…と神村学園に通っている息子のこの言葉から、心連心と私たちホストファミリーとの繋がりが始まりました。

これまで、1週間や1ヶ月程度の短期の留学生を預かった事はありましたが11ヶ月という長期の受入れは経験はありませんでした。大事なお子さんを長期にわたり預かるという事はとても責任重大なので「私たちにできるだろうか?」ととても悩みましたが、何年も何人も留学生の受入れ実績のある神村学園の先生方や心連心の先生方がサポートして頂けるとの事だったので、それなら大丈夫かなと言う安心感の元引き受けたことを覚えています。

今まで3名の留学生を預かってきました、最初の八期生束親欣ちゃんは、理系でクールなしっかりもの、十期生の劉雅軒ちゃんは天真爛漫で表現豊かで明るい子、11期生の慧ちゃんは日本のアニメが大好きでアニメのことになると、何よりも目を輝かせて教えてくれる、おしゃべり大好きっ子でみんな素直な可愛い子供達でした。何事も経験と思い、それぞれ色々な所に行き、体験し実感したことが人生において忘れがたい1ページになってると思います。

時には国の違いによる考え方、見方、捉え方の違いで、話し合いになることもあり、お互いの言い分を押し通す事もありましたが、その時はお互い真剣に納得するまで話し込みしました。それは、中途半端で話を終わらせず、逃げずに真正面から向き合う事が、一緒に生活する中で大変重要なことだと思ったからです。

特に慧ちゃんとは色々話し合ったような気がします。二人の中での人生相談、その他諸々沢山話をしました。

その中で、有り難い事に私も考えさせられたり、気付かされることも多々ありました。同じ年頃の娘がいますが、これほど深い会話をしたことはなく、今まで何にでも一生懸命取り組み、考え、それを克服してきた彼女だからこその言葉だと思いました。

慧ちゃんの学校の送迎は我が家の夕方のLINE上で誰が早く迎えに行けるか決めており、いつの間にか、それが家族の日課になっていたのでしょう。

彼女が中国へ帰国してから、私も長女もそれぞれ別の日に、慧ちゃんを迎えに行ってから○○に行こうと…あっ！慧ちゃんいなかったのだね。と…すっかり彼女は家族の一員でした。

知人からは、他人を迎え入れるのは大変でしょう！！と言われますが、私はすかさず、「大変と思えば大変なのかも知れないけど、それだけではなく、逆にそれ以上の楽しみや、喜び、活気、元気を貰えているのよ！」と自信を持って返しています。

そして、私は彼女から一番素敵な言葉を頂きました。

それは、「ママ、赤ちゃんは自分で親を選んで生まれてくるんだって！それができて、今度生まれ変われることができたら、ママの子供として生まれてきたいなぁ。みきちゃんの姉妹として生まれてきたい。」と今思い出しても涙が出ます。中国高校生長期招へい事業に関わることができたからこそ、このような素晴らしい経験をさせて頂いたことに感謝します。

有難うございました。

ホスト
ファミリー

コンちゃんを受け入れて

楊 正琨さんホストファミリー　三登 リコ

『聞いて〜』学校から帰るや否やカバンを持ったまま、その日の出来事を喋りまくるコンちゃん。

17年ホストファミリーをしてきたけど高校生の受入れは初めて。

まだ高校生だから寂しいかな?!…の予想を裏切り、初日から、もうずっと昔から家族であったかのように溶け込んでたコンちゃん。

テレビがない我が家では、大晦日の夜、紅白と同時間に家族対抗紅白歌合戦をします。

その年の紅白の出場曲と自分の好きな曲の二曲を歌って通信カラオケの採点機能で勝敗を決めるというもの。

流行りの恋ダンスを白組が歌うので紅組はバックでダンスを踊ることになりました。

学校から帰ると『ママ！お姉ちゃん！恋ダンスの練習しよ！』と、勉強もそこそこに練習に余念がありません（笑）

結果的にはグダグダのダンスだったけど（笑）コンちゃんのお陰で楽しい年越しになりました。

お正月は近所のお友達も一緒に初詣に行ったり、日本の伝統的なお正月遊びである、福笑いや羽根つき等をして遊びました。

もちろん、羽根を落としたら顔に墨を塗って（笑）

バレンタインには一緒にチョコを手作りしたり、節分には鬼めがけて豆まきしたり…　部活の将棋や塾、バレエを習ったりもして、日本の行事や生活を積極的に楽しんでました。

『ママ、ママ』と人懐こい幼さもあったけど、懐の深い度量の大きさも持ち合わせた子だったので、本当に深い色んな話もしました。

日本をもっと好きになって欲しい、安心して過ごして欲しいという気持ちで迎え、過ごしますが、毎年、受け入れをした生徒の誰かが帰って来たり、私たちが彼らのところへ行ったりして、いつまでも家族として繋がっていること、想いが伝わっていることを嬉しく思っています。

これからも、出会えた縁を大切にしていきたいと思います。

来年には日本の大学に入るため帰って来る予定のコンちゃん。

娘に再会するのが待ち遠しい日々です。

友達

梁君との学校生活

鹿児島育英館高等学校　鈴木 泰成

私には中国の友達がいます。

その友人、梁愷東君は去年の体育祭が終わった後留学に私のクラスへやってきました。

初めは日本語ができる上に真面目でいかにも秀才といったイメージでした。しかし、彼と話し、アニメやマンガが好きだったり、中国での生活を知るうちに、だんだんと仲良くなっていきました。

冬休みには梁君が我が家にホームステイに来ました。

一緒に海に行ったり、２人の好きな年末番組を見たり、中国の水餃子を教えてもらったりしました。「海を見たことがない」と聞いた時にはとても驚きましたし、水餃子を食べた時は梁君がよく言っていた「日本と中国の味付けは違う」ということを身をもって体験することが出来ました。

また、中国語や中国の歌も教えてもらいました。発音が難しく今でもまだ全然出来ていませんが、梁君が教えてくれたことなのでこれからも練習を続けていきたいです。

梁君との日々は長いようであっという間にすぎてしまいました。

ですが彼のおかげで中国へ興味が湧き、もっと中国のことを知りたいと思うようになったので、今度は私が中国の文化を学びに中国へ行こうと思います。

そこでまた梁君に会えることを楽しみにしています。

友達

なりたい自分に

三重高等学校　嶋田 光希

張雨瀟さんが私たちのクラスで過ごした約９カ月間は、私の高校生活のなかでも、かけがえのない、忘れられない、大切な時間になりました。

彼女の勉強に対する姿勢は、いつでも真剣で、前向きでした。授業の中で分からないことがあると、すぐに自分で調べたり、友達や先生に聞いたりして解決する、という行動が彼女はとても早いです。私はよく後回しにしてしまいがちなので、この行動力は私にはありません。見習わなければならないと思いました。たとえ苦手な教科であったとしても、諦めないことと、一生懸命に取り組むことが大切なのだと、彼女に気づかされました。

私は留学したことがないので、海外の同世代の学生と、話したり、一緒に勉強したりすることはあまりありませんでした。彼女に出会うまでは、日本の中のことしか考えることができずにいたのですが、こんなにも頑張っている高校生が世界にはいるんだ、国や話す言葉が違う者同士でも、一緒に勉強したり、何かに取り組んだりすることができるんだと、彼女のおかげで、一気に日本から世界へと視野が広がりました。

張さんが最後に「次会った時に、それぞれがなりたい自分になっていますように」と言っていたのが印象的です。一旦日本を離れましたが、また会える日を楽しみに、お互いに成長して、なりたい自分になった姿を見せられように、目標に向かっていきたいと思います。

友達

雪ちゃんとの思い出

横須賀市立横須賀総合高等学校　樋田 愛香

雪ちゃん(孫瑞雪さん) は去年、美術部に入部しました。話しかけてみると雪ちゃんはとても明るくて、日本語が上手で、わからないところがあっても英語に変えたりして理解できたし、好きな曲の話などで盛り上がりました。

ある日、雪ちゃんが映画に誘ってくれました。誘ってもらえると思わなかったのでびっくりしたし、とても嬉しかったです。その日の事はとても良い思い出になりました。思えばその日から雪ちゃんともっと話すようになったので、良いきっかけにもなりました。いつのまにかお昼もみんなで食べるようになっていました。

部活帰りにうどんを食べた日の雪ちゃんが話してくれた、日本と中国の味付けの違いの話はよく覚えています。そうして話す度に私は雪ちゃんのことや中国のことを知ることができました。

雪ちゃんは努力家で、コツコツと努力を積み重ねているのがすごいと思います。なんでもチャレンジする所もすごく良いところだと思います。

私も雪ちゃんのように毎日少しずつ勉強をする努力をしたいです。

また、雪ちゃんのつくる作品は気持ちがこもっていて素敵だと思います。

最後に花火をしたのはとても楽しかったね！またどこかに行ける日を楽しみにしてるよ！また逢う日まで元気でね！

友達

日中交流を通して

東京学芸大学附属国際中等教育学校5年　小野 雄太郎

中国から張義澤君がやってきたのは去年の秋でした。そこから今年の7月まで、同級生としてまたバスケットボール部のチームメイトとして彼と過ごしてきました。

正直なところ最初は文化が異なり、カタコトの日本語で話していた彼に対し自然に接することはできませんでした。時には言葉遣いが荒い彼に対して、仕方がないと分かっていながらもきつい言葉をかけてしまうことも、彼と衝突することも少なくありませんでした。そんなとき、異文化交流というのはそう簡単にいくものではないと思い知らされました。同じ日本人でも心を開くのは容易ではないのに、母語も文化も全く違う彼と打ち解けるのはそうたやすくなかったのです。

それでも数か月一緒にバスケで汗を流し、テストの点を競い、遊びに行ったりする内に、お互いに言いたいことを言える仲間になれたと思います。きっと僕だけでなく、同級生の皆も部活の仲間もそうだと思います。

今回の日中交流のプログラムを通して、僕らは文化と言葉の壁を越えてかけがえのない一人の友人を作ることが出来ました。そして、張君が育った中国という国がどんな場所なのか知りたくなりました。高校を卒業したら、彼に会いに部活の仲間と一緒に中国に行ってみたいと思います。

中央最上段（張くんの上）が小野くん

受入校の声

改めて中国人と日本人の国民性の違いなどが良く分かった。生徒同士の交流が進んで、本校生徒の中で理解が進んだと思う。

生徒同士の交流が進む中で、本校生徒の異文化理解の意識が深まった。また中国語の授業が、留学生の存在によって大いに活性化した。

受け入れた生徒の日本語能力が高く、謙虚で向学心が強いところに他の生徒が刺激を受けていた。

お互いに影響を与え合うことができ、とても学ぶものの大きいプログラムだと思う。

クラスでも英語や数学で1位の成績を取っている姿を見て、生徒たちは驚いた。また、勉強に一生懸命取り組む姿に周りも頑張ろうと影響を受けた。

日本に馴染もうという気持ちがあって、色々交流もし、学校だけでなく、地域でも溶け込んでいた。

多様な価値観を受入れ、学力面、生活面でも他の模範となった。

ホストファミリーの声

中国人、特に若い人についての私達の見方が変わった。向上心が有り、とても優秀でがんばり屋さんであったこと。

色々あるが、まずは活気。忙しそうにしながら一緒に楽しんでいた。最近はこの子が帰ったら私どうなるんだろうと考える事もあるくらい大きな活力になっている。

久々に16歳の学生を受け入れ、多感で精神的にも不安定で、最初は戸惑いもあったが、色々毎日の会話でお互いに理解を深めることができたと思った。

留学生が勉強だけでなく、色々なことに熱心に取り組むところを息子が見て、良い影響があったと思う。

今回の受け入れで心連心の生徒7人目だったが、それぞれ個性が有り、来た頃から帰る頃までの成長する過程を見守ってきたことにより、1人の人間として交流できた。

あとがき

2017年7月、第11期生31名全員が無事に帰国しました。現在は、元の在籍校で元気に中国での高校生活を送っています。

本事業を通して、主催側でありながらも深い感動をおぼえる場面がいくつかあります。なかでも、中国へ帰る直前、「帰国前報告会」において招へい生一人ひとりが修了証書を受け取る場面は、その最たるものと言えるでしょう。

証書を授与する当センター所長からの「あなたの過ごした場所の一番の自慢はなんですか」という質問に、皆きわめて自然な日本語で、大勢のご来賓の方々の前で堂々と答えていました。なかには、生活した場所の方言を披露して、会場を沸かせる生徒もおり、彼らの1年間の留学の成果、1年間で積み上げてきた彼らの努力を、ひしひしと感じる瞬間でした。

この報告会にいたるまで、日本全国各地で、31人31色の留学生活を送ってきました。剣道や弓道、茶道など、日本ならではの部活動に懸命に取り組んだ生徒、地域のお祭りで鎧を着て街を練り歩いた生徒、「外国人による日本語弁論大会」の決勝戦で堂々のスピーチをする生徒、国籍の違いを超えてクラスメートとかけがえのない絆を育んだ生徒…。さまざまな形で一人ひとりが、「心連心」、心と心をつなぐ交流を体現してくれたことを、嬉しく思います。

本事業の修了生は約4割が日本の大学へ進学、また大学卒業後も、日本研究の道、日系企業、さらには中国の外交部（外務省）に入職する者もおり、まさに日本と中国の架け橋として活躍しています。将来、さらに立派に成長した第11期生らと、日本、中国、はたまた世界のどこかで、再会できることを願ってやみません。

最後に、第11期生を多方面より支えてくださった受入高校の先生方、ホストファミリーの皆様、そしてすべての関係者の皆様の日頃からのご尽力、ご支援に心より深く感謝申し上げます。

国際交流基金 日中交流センター
事務局長　堀 俊雄

日中交流センター職員一同

心連心ウェブサイト

日 中 両 言 語 対 応

http: ／／ www.chinacenter.jp ／

日中交流センターでは、日本と中国の将来を担う若者たちが心と心を結び合う“心連心”をテーマに、「高校生長期招へい事業」「中国ふれあいの場事業」「ネットワーク強化事業」を実施しています。詳しくはウェブサイトをご覧ください。

心連心：中国高校生長期招へい事業 第11期報告書

2017年12月発行

独立行政法人国際交流基金 日中交流センター

〒160-0004 東京都新宿区四谷4-16-3

TEL：03-5369-6074　FAX：03-5369-6043

Heart to Heart

JAPANFOUNDATION 国際交流基金
日中交流センター

〈協賛〉カシオ計算機株式会社、株式会社資生堂